洗足こども短期大学　幼児教育保育科
2018年度　シラバス一覧

科目授業名	開講年度学期	科目コード		ページ数
教育原理	2018年度 前期	YK4115	･････････	3
保育原理Ⅰ	2018年度 前期	YK5017	･････････	5
保育者論	2018年度 後期	YK4323	･････････	7
教育心理学	2018年度 前期	YK4137	･････････	9
発達心理学Ⅰ	2018年度 後期	YE4148	･････････	11
子どもの保健1	2018年度 前期	YK4728	･････････	13
子どもの保健（演習）	2018年度 後期	YE4731	･････････	15
子どもの保健2	2018年度 前期	YK4729	･････････	17
子どもの食と栄養	2018年度 後期	YE5032	･････････	19
乳児保育	2018年度 後期	YE5055	･････････	21
障害児保育Ⅰ	2018年度 後期	YE4851	･････････	23
障害児保育Ⅱ	2018年度 前期	YE4786	･････････	25
保育内容・健康	2018年度 前期	YE4214	･････････	27
保育内容・人間関係	2018年度 後期	YE4224	･････････	29
保育内容・環境	2018年度 前期	YE4234	･････････	31
保育内容・言葉	2018年度 後期	YE4271	･････････	33
保育内容・総論	2018年度 後期	YE4272	･････････	35
教育課程論	2018年度 前期	YK4186	･････････	37
カウンセリング論	2018年度 前期	YK4156	･････････	39
保育・教職実践演習(幼稚園)	2018年度 後期	YE4350	･････････	41
社会福祉	2018年度 前期	YK4795	･････････	43
児童家庭福祉	2018年度 後期	YK4766	･････････	45
家庭支援論	2018年度 後期	YK5057	･････････	47
相談援助	2018年度 前期	YE4797	･････････	49
保育相談支援	2018年度 後期	YE5082	･････････	51
社会的養護	2018年度 前期	YK5025	･････････	53
社会的養護内容	2018年度 後期	YE5081	･････････	55
造形表現Ⅰ	2018年度 前期～後期	YE4521	･････････	57
保育内容・造形的表現	2018年度 前期～後期	YE4269	･････････	60
幼児音楽Ⅰ	2018年度 前期～後期	YE4453	･････････	63
幼児音楽Ⅱ	2018年度 前期～後期	YE4454	･････････	66

洗足こども短期大学　幼児教育保育科
2018年度　シラバス一覧

科目授業名	開講年度学期	科目コード		ページ数
ピアノⅠ	2018年度 前期～後期	YE4432	・・・・・・・・	69
ピアノⅠ（再履修）	2018年度 前期～後期	YE4432	・・・・・・・・	72
ピアノⅡ	2018年度 前期～後期	YL4436	・・・・・・・・	75
合唱1	2018年度 前期～後期	YE4916	・・・・・・・・	78
基礎表現	2018年度 前期～後期	YE4772	・・・・・・・・	81
総合表現（ぐりとぐら）	2018年度 前期～後期	YE4773	・・・・・・・・	84
演技実習	2018年度 前期	YE4924	・・・・・・・・	87
体育（乳幼児体育を含む）	2018年度 前期～後期	YE4620	・・・・・・・・	89
国語	2018年度 前期～後期	YK4821	・・・・・・・・	92
教育実習指導Ⅰ	2018年度 前期	YE4351	・・・・・・・・	95
教育実習指導Ⅱ	2018年度 後期	YE4352	・・・・・・・・	97
教育実習指導Ⅲ	2018年度 前期	YE4353	・・・・・・・・	99
保育所実習Ⅰ	2018年度 後期	YJ5061	・・・・・・・・	101
保育実習指導Ⅰ（保育所）	2018年度 前期～後期	YE5068	・・・・・・・・	103
保育所実習Ⅱ	2018年度 後期	YJ5062	・・・・・・・・	105
保育実習指導Ⅱ（保育所）	2018年度 前期～後期	YE5069	・・・・・・・・	107
児童福祉施設実習Ⅰ	2018年度 後期	YJ5071	・・・・・・・・	109
保育実習指導Ⅰ（施設）	2018年度 前期～後期	YE5073	・・・・・・・・	111
情報機器の操作1A	2018年度 前期	YE0386	・・・・・・・・	113
英語(外国語コミュニケーション)	2018年度 前期～後期	YE2121	・・・・・・・・	115
健康・スポーツ	2018年度 前期～後期	YJ3123	・・・・・・・・	118
保健体育	2018年度 後期	YK3125	・・・・・・・・	121
法学（日本国憲法）	2018年度 前期	YK0216	・・・・・・・・	123
ビジネス講座(秘書検定対策)	2018年度 前期	YK0267	・・・・・・・・	125
ウィンド・バンド1	2018年度 前期～後期	YE0410	・・・・・・・・	127
ウィンド・バンド2	2018年度 前期～後期	YE0411	・・・・・・・・	130
ミュージカル	2018年度 前期	YE0412	・・・・・・・・	133
パイプオルガン1	2018年度 前期～後期	YE0414	・・・・・・・・	135
パイプオルガン2	2018年度 前期～後期	YE0415	・・・・・・・・	138

科目名	教育原理			授業コード	YK4115A0	科目コード	YK4115
担当教員	柳井　郁子・曽野　麻紀・井上　眞理子						
授業形態	講　義		配当学年	1		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	必　修

1．主題・到達目標

教育とは何か、学校とは、そして学ぶとはどういうことかを考える。また、教育学は何を課題としてきたかについても学ぶ。
授業では教育と教育学についてその概念・思想・歴史について理解することをねらいとする。
そのうえで、保育者として教育とどのようにかかわっていくかを考える力を培うことを目標とする。

2．授業概要

基本的に講義形式だが、教育実践例の検討等については映像資料を活用し、議論の機会を設ける予定である。
学校や保育の現場における授業実践、及び家庭や地域社会における教育の方法・内容・制度についても取り上げ、さまざまな教育の場における現代的課題について考える。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

広範な学習内容になる。教育関係の図書資料をできるだけ多く読み、新聞やテレビ等、毎日の報道からも材料を得て、意欲的に学習を発展すること。また、授業で紹介する参考図書については、できるだけ多く読むこと。
毎回の授業後の復習として、テキストの該当箇所を熟読し理解すること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内の課題・レポート・授業への参加姿勢等＞（評価の50%）
筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト:
『やさしい教育原理』＜第三版＞田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著　（有斐閣）　2016年

参考文献:
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省　（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省　（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。
随時学生からの発言を求めるので、積極的な参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（授業のねらい、進め方及び授業の受け方についての説明）
2	教育とは何か
3	学校とは何か
4	子どもとは何か
5	子ども観の歴史的変容
6	子育ての歴史
7	教育の歴史①近代公教育制度の成立
8	教育の歴史②戦後の学校教育
9	子どもの権利
10	教育の思想①近代
11	教育の思想②現代
12	教育実践の可能性①保育の実践例を考察する
13	教育実践の可能性②学校教育の実践例を考察する
14	これからの教育と私たちの課題
15	まとめ＜確認テストおよび解説＞

科目名	保育原理Ⅰ			授業コード	YK5017A0	科目コード	YK5017
担当教員	神蔵　幸子・金　允貞・高橋　優子						
授業形態	講　義		配当学年	1		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	必　修

1．主題・到達目標

＜主題＞
保育者となるための基本的な考え方を総合的に学習する。保育に関する制度や理論を学ぶとともに、あたたかな人間理解に基づき子どもを育むということについて自覚を高めることを目指す。

＜到達目標＞
①保育における子ども理解の重要性について学ぶ。
②様々な保育の場を支える法規と制度について学ぶ。
③保育の思想と歴史を学ぶとともに、保育の現状と課題を理解する。
④保育者に求められる在り方について考える。

2．授業概要

・現代の保育の考え方や方法がどのような根拠を持っているのか様々な視点から探求する。
・幼児教育・保育の意義および基本、目標、方法、内容、特性について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに解説する。
・幼稚園、保育所等の映像や資料を通し子ども理解を深め、保育者に求められる在り方について話し合う。
・図書館の利用方法を理解し、保育に関する文献検索の体験を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

保育についての考え方や方法は多種多様であり、また、子どもの発達についての学問的見解も日進月歩である。それらの研究成果を学びながら、そこにとどまることなく、学んだ知識が真に意味を持って実際の保育に生かせるように、新聞等の報道にも関心を持って生活して欲しい。また、授業内で紹介される文献を図書館で借りて読むなどの復習は大変有効である。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜課題提出・授業内の小テスト＞（評価の25%）
授業への参加態度（評価の25%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

①『保育原理』神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美（編）（青踏社）
②『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞　文部科学省　（フレーベル館）
③『保育所保育指針解説書』＜最新版＞　厚生労働省　（フレーベル館）
④『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス：授業内容全体の説明 保育を学ぶということ ・子どもを取りまく現状の理解 ・「私の絵本リスト」の作成について
2	保育の基本・子ども理解 ・予習：自分が持つ子どものイメージについて考える ・復習：子どもの姿を観察する
3	子ども観・保育観 西欧と日本の保育思想 ・予習：「保育」という言葉の語源、歴史について調べる ・復習：興味をもった保育思想家・保育実践家について調べる
4	保育の場を支える法規 児童憲章・学校教育法・児童福祉法 ・予習：児童憲章について調べる
5	保育の場と制度：保育所・幼稚園・認定こども園 ・予習：自分が住んでいる地域の保育制度について調べる
6	幼稚園・保育所・認定こども園の目的 ・復習：幼稚園・保育所・認定こども園の目的について整理する
7	幼稚園・保育所・認定こども園の保育の基本と目標 ・復習：幼稚園・保育所・認定こども園の保育の基本と目標について整理する
8	保育の内容 領域の変遷・領域の考え方
9	保育のねらい 遊びを通した総合的な指導
10	保育の計画 全体的な計画と指導計画のつながり
11	子どもの育ち・学びの連続性 「幼児教育」と「小学校教育」の違いとつながり
12	保育の現状と課題 ・予習：子どもや育児、保育に関する新聞記事を読む
13	子育て・家庭支援 ・予習：園で行われている支援の具体的な内容を調べる
14	保育者の在り方 ・予習：テキスト第11章「保育者の在り方」を読む ・復習：保育者を目指す現在の「私」自身の在り方について見つめ直す
15	全授業内容のまとめ・解説

科目名	保育者論			授業コード	YK4323A0	科目コード	YK4323
担当教員	井上　眞理子・柳井　郁子・金　允貞・高橋　優子						
授業形態	講　義		配当学年	1		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	必　修

１．主題・到達目標

保育者の仕事は、子どもの気持ちや発達を理解し、子どもの育ちを援助する仕事である。保育者を志す学生として「保育者になる」とはどのようなことか、保育者とはどのような職業であるか、保育者に求められる専門性とは何かを理解することを目標とする。さらに、保育者としての役割を担うために必要な資質・考え方・学びとは何かを理解することを目指す。

２．授業概要

・制度的な保育者の位置付け、現代の現場で求められる保育者の役割と倫理について理解する。
・省察的実践者としての保育者の専門性について事例等をもとに考察し、理解する。
・園内における職員の協働をはじめ、保護者や地域、他機関との連携の上で成立する保育者の職務を理解する。
・専門職者としての保育者の成長を理解するとともに、主体的かつ生涯学び続ける保育者としての構えを修得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業後の復習として、テキストの該当箇所を熟読し、理解しておくこと。また、授業でとりあげた事例や資料についてもふり返り、理解を深めること。保育に関連する社会情勢に日頃から関心を持ち、文献やインターネット等を活用し、自ら情報を収集し、これからの保育者に求められる社会的ニーズを学ぶ姿勢を身に付けること。

４．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜課題、授業内のディスカッションへの積極性、授業への参加姿勢等＞（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『保育者論』　汐見稔幸・大豆生田啓友編　（ミネルヴァ書房）　第２版　2016年
『幼稚園教育要領解説』　＜最新版＞文部科学省　（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省　（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。
授業内で行うディスカッションには積極的に参加し、学び続ける保育者、協働的な学び手としての構えを身に付けることができるように意識して臨むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業の受け方、「保育者になる」ということ）
2	保育者の資格と責務（幼稚園教諭免許と保育士資格）
3	現代の保育者に求められる役割と倫理
4	保育者の専門性と「養護」と「教育」
5	保育者の専門的知識・技術・判断と資質
6	保育を省察する力：事例と考察①「観察や記録を通して子どもを理解する」
7	保育を省察する力：事例と考察②「子ども理解に基づく援助」
8	保育を省察する力：事例と考察③「子ども理解と保育計画」
9	園内における協働と同僚性
10	保護者、地域社会及び他機関との協働
11	保育の質向上と自己評価
12	保育者自身の学びと発達
13	保育者の成長とキャリア
14	まとめ①＜保育者にまつわる現代的課題の理解＞
15	まとめ②＜保育者の専門性と責務を考える＞

科目名	教育心理学			授業コード	YK4137A0	科目コード	YK4137
担当教員	坪井　葉子・山本　有紀・岡本　かおり						
授業形態	講　義		配当学年	1		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	必　修

１．主題・到達目標

本講義では、乳幼児期を中心に子どもの心身の発達過程とその特徴を理解し、発達、学習と教育に関わる心理学の基礎的知識を習得する。また、他者との相互的かかわりを通して発達をしていくことや、養育者や保育者、教育者に求められる役割を理解する。生涯発達の観点から各時期と各領域での発達を理解し、初期経験の重要性や環境との相互作用を理解する。保育現場で様々な子どもの実態に応じ、子どもの主体性を育むような適切な働きかけ、援助や指導ができる力の基礎を養うことを目標とする。

２．授業概要

保育と教育心理学のつながりを理解し、身体・運動、知覚・認知、思考・言語、社会性などの領域での子どもの発達を学ぶ。他者との相互的なかかわりでの基本的信頼感の獲得、社会的相互作用、生涯発達と初期経験の重要性といった保育実践に関わる心理学の基礎知識を身につける。また、子どもの主体的な学習行動を支える教育、援助、また、個人差と個性、適応・不適応など心身の発達を踏まえた援助や指導といった、学習支援、保育援助の基礎理論と実際を学ぶ。総じて、教育の動向と教員に求められる役割を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

テキストを読んで復習し、次の講義に臨むこと。詳細は授業時に担当教員より指示する。

４．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度もしくはレポート内容の充実度（評価の50%）
平常点＜授業内の提出物および授業への参加姿勢＞（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『教育心理学　保育者をめざす人へ』　樹村房　2004年

授業内で、適宜資料を配布する。
尚、テキストは、後期開講科目「発達心理学Ｉ」でも適宜使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

将来、保育者や養育者となったとき、大人の関わりが子どもに大きく影響を及ぼすことを意識し、主体的に講義に臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション、保育と教育心理学
2	発達と教育①発達理論、外的内的要因の相互作用、初期経験と環境の重要性
3	発達と教育②生涯発達、発達段階、発達課題
4	発達と教育③身体・運動発達
5	発達と教育④知覚・認知発達
6	発達と教育⑤思考・言語発達
7	人との相互的かかわりと子どもの発達①基本的信頼感、愛着
8	人との相互的かかわりと子どもの発達②感情と自我
9	人との相互的かかわりと子どもの発達③遊びと仲間関係（社会性）
10	学習①学習理論（条件付け、洞察学習、観察学習）
11	学習②主体的な学習活動を支える教育、援助（動機づけ、無力感、集団、学習評価）
12	学習③心身の発達を踏まえた援助や指導（レディネス、発達の最近接領域の理論）
13	個人差や個性とその援助　　知能、気質・性格
14	適応・不適応とその支援　　適応、精神的健康と障害
15	教育の動向、教員に求められる役割、資質、能力 全授業内容のまとめ、確認テストおよび解説

科目名	発達心理学Ⅰ			授業コード	YE4148A0	科目コード	YE4148
担当教員	坪井　葉子・山本　有紀・岡本　かおり						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

子どもの心身の発達について理解を深め、生活や遊びを通した子どもの学びや成長の過程を理解する。発達理解を踏まえて保育における発達援助について学び、学んだ内容を保育実践に応用できるようになることを目標とする。

2．授業概要

子どもの発達段階と発達過程に対する理解を深め、個人差を考慮し、個々の発達を捉える力を養う。さらに保育実践を想定し、身体運動や身体感覚・生活習慣・認知・言語・社会性・主体性などの発達を促す具体的な援助や、発達過程を見通した保育者と子どもの関わり・子ども同士の関わり・保育の環境について学ぶ。就学支援や生涯発達をも踏まえた発達支援、現代社会における子どもの発達をめぐる諸問題についても学習する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

詳細は授業時に担当教員より指示する。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度もしくはレポート内容の充実度（評価の50%）
平常点＜授業内の提出物および授業への参加姿勢＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『保育のための心理学ワークブック』　ナカニシヤ出版　2015年

授業内で、適宜資料を配布する。
また、前期開講科目、教育心理学の指定テキスト『教育心理学 保育者をめざす人へ』樹村房 2004年を適宜使用する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期の開講科目、教育心理学で学んだ基礎知識を応用するため、よく復習しておくこと。演習科目として、保育実践や保育における発達援助に関して、自ら考える姿勢を持つことを望む。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション、発達と保育実践①子どもの発達理解の方法、個人差や発達過程に応じた保育
2	発達と保育実践②身体感覚を伴う経験と環境との相互作用
3	発達と保育実践③環境としての保育者
4	発達と保育実践④子ども相互の関わり（道徳性、向社会的行動）
5	発達と保育実践⑤自己主張と自己抑制
6	発達と保育実践⑥子ども集団と保育の環境
7	生活や遊びを通した学びの過程①子どもの生活と学び
8	生活や遊びを通した学びの過程②子どもの遊びと学び
9	生活や遊びを通した学びの過程③生涯に渡る生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助①基本的生活習慣の獲得と援助
11	保育における発達援助②自己の主体性の形成と援助
12	保育における発達援助③発達の連続性、就学への支援
13	保育における発達援助④発達援助における協働
14	保育における発達援助⑤現代社会における子どもの発達と保育の課題
15	乳幼児期の発達の課題に応じた援助や関わりについてのまとめ、確認テストおよび解説

科目名	子どもの保健１			授業コード	YK4728A0	科目コード	YK4728
担当教員	堀　　純子						
授業形態	講　義	配当学年	1			期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	－	保育士資格	必　修

１．主題・到達目標

「保育内容・健康」との関連を踏まえて、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、保育者として保健活動を行うための基礎知識を獲得することを目標とする。子どもの健康に影響を及ぼす基本的生活習慣や運動遊び、安全の現状を知り、その必要性を理解する。さらに、獲得した保健活動に関する知識について実践に生かせるまでに理解を深め、保育者として適切な判断や対応ができることを目指す。

２．授業概要

「保育内容・健康」で学ぶ実践を振り返りながら、子どもの心身の健康について考え、子どもの健康増進を図る保健活動の意義を理解する。さらに保健活動をおこなうための基礎知識として、「子どもの保健に関する現状」「身体発育」「運動機能の発達」「精神発達」「生理機能の発達」「健康と安全」などを学ぶ。これらの知識を踏まえて、日々の保育の中で保育者がどのような目的でどのような保健活動を行っているかについて具体例に触れながら理解を深め、基礎知識を実践に生かせるようにする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題は次回までに必ず取り組む。
・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
・新たにおこっている健康問題や様々な意見について報道などから情報収集し、自分の考えを構築する習慣をつける。
（保健の分野は特に変化が大きいので、自らも新しい情報に敏感になること。）

４．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『新しい時代の子どもの保健』衛藤 隆他 編集　（日本小児医事出版社）

参考文献：
『心とからだを育む子どもの保健Ⅰ』 髙内正子 編著　（保育出版社）
『保育者養成シリーズ「子どもの保健Ⅰ」』 林邦雄 監修　（一藝社）
『最新保育保健の基礎知識』 巷野悟郎 監修　（日本小児医事出版社）
『最新子ども保健』澤田淳・細井創 編（日本小児医事出版社　　他、授業時に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
・配布プリントをまとめて各自で管理する。
・提出物は期限厳守。
・暗記だけにならないように、よく考えながら理解することを心がける。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・子どもの保健とは （自分の健康観を知り、健康への影響因子を考える）
2	子どもの保健とヘルスプロモーション （健康の定義を確認した上でヘルスプロモーションの考え方を理解し、子どもの時期の健康についての特徴を大人と比較しながら考える）
3	母子保健と保育 （リプロダクティブ・ヘルスの重要性を理解し、胎児期や母親からの子どもの健康への影響を知る）
4	発育と発達 （乳幼児の発育・発達における重要な理論を踏まえ、実際の発育・発達の様子を知る）
5	身体発育と評価 （母子健康手帳に記載されている乳幼児身体発育曲線、幼児の身長体重曲線などを用いて実際に身体発育を評価する方法を理解する）
6	子どもの運動機能の発達 （乳幼児期の運動発達の特徴と留意点を理解し、粗大運動と微細運動の獲得時期と発達の様子を知る）
7	子どもの精神発達・こころと健康 （言語、生活習慣、社会性、情緒の発達の概要を知り、乳幼児のこころの発達の様子とこころの健康について理解する）
8	子どもの発達の特徴と評価 （脳神経系の発達の特徴を踏まえて乳幼児への働きかけについての留意点を理解し、運動発達とその他の発達との関連を考えながら発達検査について知る）
9	子どもの生理機能の発達 （乳幼児の体温、呼吸、循環について大人との違いを確認し、睡眠の変化と排泄の自立の様子を理解する）
10	子どもの食と栄養 （消化・吸収について確認した上で、乳汁期、離乳期から幼児食への変化の概要と保育上の留意点を知る）
11	子どもの遊びと健康・子育て支援 （視覚、聴覚などの感覚の発達と観察の重要性について理解し、遊びが健康に及ぼす影響と子育て支援について考える）
12	子どもの健康と安全 （感染症と生活習慣病の予防を考え、保育者として子どもの事故防止のために重要なことは何か理解する）
13	障がいをもつ子どもへの支援 （子どもの心身症や気になる行動への保育者としての対応を理解し、発達障害と障がい児保育の概要を知る）
14	子どもの保健に関する諸統計 （合計特殊出生率などの実際の統計資料を用いて現状を知る方法を学び、母子保健や乳幼児の死亡、子どもの病気のデータについて知る）
15	知識の確認とまとめ （保育者としての子どもの保健の重要事項を振り返って理解し、他の科目の学びに生かす）

科目名	子どもの保健（演習）			授業コード	YE4731A0	科目コード	YE4731
担当教員	向笠　京子・堀　　純子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

１．主題・到達目標

安全面や衛生面に配慮した保育者としてふさわしい服装や髪型を考えて準備できる。「子どもの保健１」で学んだ知識をもとに、保育者として子どもの健康を守り高めるために必要な援助の方法について学び、具体的な技術を習得して実践できるようにする。保育者として正確に手際よく行うことができるように、本授業で繰り返し練習して、基本的な技術を確実に身につける。それぞれの方法や技術の合理性を理解して、実際の場面に適した方法で対応できるようにする。

２．授業概要

テキストとデモンストレーションで基本的な理論と手順やポイントを学んだ後、人形や器具・用具を用いながら、実際の場面を想定して練習する。子どもに対する健康教育に関する知識を得て、子どもが自らの健康や安全について考えて行動できるようになるために、保育者は具体的にどのような支援を行えばよいのか、事例を調べ、グループワークで考えて発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題は次回までに必ず取り組む。
・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
・授業で学んだ内容とは異なる方法や考え方もあるので、自らも情報収集して様々な方法や考え方を知る。

４．成績評価の方法及び基準

筆記試験および実技試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『これならわかる！子どもの保健演習ノート』榊原洋一監修（診断と治療社）

参考文献：
『心とからだを育む子どもの保健Ⅱ（演習）』 髙内正子編著 （保育出版社）
『演習子どもの保健Ⅱ』今井七重編（株式会社みらい）
『子どもの保健Ⅱ』 志賀清悟編著 （光生館）
『実践保育学』 帆足英一監修 （日本小児医事出版社）　　他、授業時に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・「子どもの保健１」を履修済みのこと。
・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
・配布プリントをまとめて各自で管理する。
・提出物は期限厳守。
・グループワークでは主体的、積極的に動くこと。
＜準備＞
・授業開始前に手洗いをする。名札着用。
・毎回、保育ができる服装と髪型を整える(化粧不可）。
・詳細は授業時に説明するが、その他、各回に必要な物を準備すること。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス・手洗い
2	乳児の養育方法①抱き方と背負い方・睡眠
3	乳児の養育方法②おむつ交換・衣服着脱
4	乳児の養育方法③沐浴・授乳と排気
5	歯みがきとむし歯予防・食事支援
6	身体計測
7	バイタルサインと健康観察
8	心肺蘇生法
9	AED・気道異物除去
10	応急手当と包帯法
11	環境整備と安全対策
12	慢性疾患や障害をもつ子どもへの対応
13	保育者としての保健活動と健康教育
14	まとめ①技術の確認
15	まとめ②知識の確認

科目名	子どもの保健２			授業コード	YK4729A0	科目コード	YK4729
担当教員	向笠　京子・推野　万里子						
授業形態	講　義		配当学年	2		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必　修

１．主題・到達目標

「子どもの保健１」や「子どもの保健（演習）」で学んだ知識をもとに、子どもの主な病気と各症状への適切な対応、感染症とその予防、保育現場における事故防止と応急手当等についてさらに具体的に学び、すぐに実践できるようにする。また、子どもの心身の健康についての理解を深め、子どもの保健に関する幅広い知識を得て、保育者としての保護者への対応や育児支援ができるようになる。

２．授業概要

各疾患や感染症については、予防と集団感染の防止に重点をおいて理解する。子どもの健康管理について、個々の子どもの実状に合わせた、保育者としての的確な対応を学ぶ。また、保育者として保護者に対応できるように、乳幼児健診、子育て支援や家庭での育児に必要な知識、および保護者の健康等についても取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題は次回までに必ず取り組む。
・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
・現在新たにおこっている健康問題や様々な意見について、報道などから情報収集し、自分の考えを構築する習慣をつける。
（保健の分野は特に変化が大きいので、自らも新しい情報に敏感になること。）

４．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『子育て支援における保健相談マニュアル』　田中哲郎監修　（日本小児医事出版社）

参考文献：
『新しい時代の子どもの保健』衛藤隆他編集（日本小児医事出版社）
『心とからだを育む子どもの保健Ⅰ』　高内正子編著　（保育出版社）
『心とからだを育む子どもの保健Ⅱ（演習）』　高内正子編著　（保育出版社）　　他、授業時に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・「子どもの保健１」、「子どもの保健（演習）」を履修済みのこと。
・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
・配布プリントをまとめて各自で管理する。
・提出物は期限厳守。
・暗記だけにならないように、よく考えながら理解することを心がける。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・感染症
2	学校感染症
3	予防接種
4	子どもの主な病気
5	発熱と痙攣・子どもの看護
6	病児保育・子どもの病気に関する相談
7	気管支喘息・食物アレルギー・皮膚疾患
8	アナフィラキシーショックとエピペン
9	心疾患・肝炎・熱中症・乳幼児突然死症候群
10	家庭での事故防止と応急手当
11	乳幼児健診
12	精神保健
13	子育て支援サービス・育児に必要な知識
14	保護者の健康
15	全授業内容の確認とまとめ

科目名	子どもの食と栄養			授業コード	YE5032A0	科目コード	YE5032
担当教員	齋藤　優子・伊藤　みどり						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

乳幼児期の食生活は子どもの健康を左右するばかりでなく、生涯にわたる食生活習慣が決まる重要な時期である。
子どもたちにとって、よりよい食生活を実現していくために保育者がもつべき知識・技術を習得することを目標とする。

2．授業概要

栄養学の基礎知識、乳児期・幼児期のライフステージ別栄養、その特徴、その各期別栄養問題（偏食、食物アレルギー、生活習慣病等）についての解説と演習。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

提出物は期限を守り、復習時には教科書を熟読すること。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜課題提出、授業内の小テスト＞（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の20%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『子どもの食と栄養』＜新版＞ 峯木真知子・髙橋淳子編 （（株）みらい）

参考文献については、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的に取り組むこと。
保育士自身が食品や栄養について興味をもち、自分自身の健康・栄養管理をしっかりと行うことが大切である。この授業をきっかけに、自身の食生活を見直してもらいたい。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス、 「子どもの発育・発達と食育の重要性」
2	子どもの発育・発達と栄養
3	栄養の生理と消化吸収
4	栄養素の働き（糖質・脂質・たんぱく質）
5	栄養素の働き（無機質・ビタミン）
6	食品とその成分（食品群、Ⅰ～Ⅳ群）
7	食品とその成分（Ⅴ～Ⅵ群）、小テスト
8	望ましい献立と食べ方
9	乳児の食事（母乳とミルク）
10	乳児の食事（離乳食）
11	幼児の食事
12	保育所給食と保育者の役割
13	ミルクとベビーフードの調査・試食
14	子どもを取り巻く食環境と食育
15	まとめ　－全授業内容の総復習－

科目名	乳児保育			授業コード	YE5055A0	科目コード	YE5055
担当教員	金　允貞・松田　笑美子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

【主題】
3歳未満児への保育のニーズが拡大し続けていることを認識し、3歳未満児保育の果たす役割の重大さを理解する。
0，1，2歳の心身の発達に関する専門的知識を学ぶと共に、保育者の援助や配慮を身に付ける。また、3歳未満児を持つ保護者への理解と支援について意識を高める。

【到達目標】
・幼児と異なる乳児（3歳未満児）の心身の発達や様子について理解を深める。
・0，1，2歳の生活や遊びにおける保育者の援助や配慮の仕方を身に付ける。
・乳児を持つ保護者の子育ての状況を理解し、具体的な支援を考える。

2．授業概要

この授業は乳児（3歳未満児）の心と体の育ちを保育事例と演習の形式で学び、乳児の生活を支える保育者の心構えと役割について学ぶことを目指す。また、今の時代を生きる乳児と親を理解しながら乳児保育に与えられている課題とは何かを理解する。乳児の成長・発達段階を踏まえ乳児保育の内容と方法を学び、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に考える。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

3歳未満児の発達に興味を持ち、日々の生活の場所で見かける子どもの行動や親の対応等を観察をする。
保育所実習を通して3歳未満児と積極的に関わり、授業内容と関連させながら考察し、3歳未満児への理解を深める。
自分が住んでいる地域の3歳未満児の政策を理解し、それに基づいている3歳未満児の保育の実情を調べる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）
レポート（評価の25%）
筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
『やさしい乳児保育』＜最新版＞早川悦子・池田りな・伊藤輝子編著（青踏者）

参考文献
『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）
『0・1・2歳児の心の育ちと保育』今井和子著（小学館）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育士という職業の責任の重さを自覚して授業に臨むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の全体説明・赤ちゃんのイメージ 授業外学習：生活の中で乳児の姿を観察してくること。
2	乳児保育の意義：社会的要求と乳児期の養護・教育の視点から。 授業外学習：自分が住む地域の子育て支援について調べる。
3	乳児の発達と援助 ①0～6ヶ月未満児の心身の発達 授業外学習：保育所保育指針の子どもの発達過程おおむね６ヶ月未満の部分を読む。
4	乳児の発達と援助 ②6ヶ月～1歳3ヶ月未満児の心身の発達 授業外学習：保育所保育指針の子どもの発達過程おおむね６ヶ月未満から１歳３ヶ月の部分を読む。
5	乳児の発達と援助 ③1歳3ヶ月～2歳未満児の心身の発達 授業外学習：保育所保育指針の子どもの発達過程おおむね１歳３ヶ月から２歳未満の部分を読む。
6	乳児の発達と援助 ④2歳～3歳未満児の心身の発達 授業外学習：保育所保育指針の子どもの発達過程おおむね２歳、おおむね３歳の部分を読む。
7	保育所保育指針を読む ―乳児保育の関連性のある部分を中心に読む。
8	乳児向け手作り遊具制作と発表
9	乳児保育の内容と方法 ①乳児の生活と保育者の援助及び配慮
10	乳児保育の内容と方法 ①乳児の遊びと保育者の援助及び配慮
11	乳児の健康と乳児保育における保健活動 授業外学習：乳児期に主に見られる疾病を調べてくる。
12	乳児における事故と安全対策 授業外学習：乳児期によく起こる事故について調べてくる。
13	乳児保育における記録：連絡帳の書き方
14	乳児保育における記録：乳児の個別指導計画の理解と作成
15	まとめ：授業内容全体の振り返りと確認

科目名	障害児保育Ⅰ			授業コード	YE4851A0	科目コード	YE4851
担当教員	下尾　直子・小野寺　知子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

今日、保育所・幼稚園に、障害のある（もしくは疑いのある）子どもが増加していると言われる。障害のある子に対しての適切な支援を行うためには、子どもの発達の状態を理解したうえで、個々の環境等に配慮してかかわることが重要である。本授業では、まず、新しい概念を含めた「障害」の捉え方を知り、発達と環境の観点から理解する。次に、軽度障害を含めた様々な障害について、身体的心理的特性・心身の発達、生活上学習上困難などについての知識を身につける。最後に、家庭・地域・専門機関との連携を含めた環境の整備、それにかかわる制度の理念や仕組みを知り、適切なかかわり方の基礎を身につける。

2．授業概要

さまざまな障害についての基礎的な知識を身につけるため、教科書や資料を使った講義だけではなく、映像、支援のための道具など具体物を使った体験的学習、考え方や捉え方を深めるグループ討議などを通して、理解を深める。講義で得た知識を使って、主活動の指導計画の作成、障害の特性に応じたおもちゃの作成など、身体を動かして自分で考える授業を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習・復習はもちろんのこと、日常生活の中で、障害のある人々や子どもに対する意識をもち、アンテナを張って生活すること。
障害のある人に関する報道（新聞・テレビ・雑誌等）・情報に関心をもち、地域活動やボランティアなどを通して、積極的に知ろうとする姿勢を求める。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度・発言等（評価の30%）
授業内提出物の充実度（評価の30%）
授業内の小テストや筆記試験による内容の理解度（評価の40%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『学ぶ・わかる・みえる　演習・保育と障害のある子ども』　野田敦史・林恵　編　（みらい）

参考文献は適宜紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

子どもの発達について、他の授業等でこれまでに得た知識や情報を整理して臨むこと

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション　障害児保育の理念と変遷
2	「障害」概念の変遷と現代社会（障害の社会モデル、ICF、社会・家庭と障害）
3	共生社会とインクルーシブ教育（特別な支援を必要とする幼児への様々な制度の理念や仕組みと課題、「気になる子」と第四の発達障害）
4	知的障害①（知的障害の心身の発達、心理的特性、知的障害児の生活・学習上の困難と支援の方法）
5	知的障害②ダウン症候群（染色体の突然変異とは、ダウン症の特性と支援、ダウン症をめぐる社会的状況）
6	発達障害①（発達障害の概要、自閉症スペクトラムとは、自閉症の特性と支援）
7	発達障害②ＡＤＨＤ／ＬＤ（ADHDの特性と支援、LDの特性と支援）
8	身体障害①（肢体不自由とは、脳性麻痺の特性と支援、肢体不自由児者を支援する道具など）
9	身体障害②視覚障害（様々な視覚障害、視覚障害の特性と支援）
10	身体障害③聴覚障害と言語障害（聴覚障害の特性と支援、構音障害の特性と支援、手話・マカトンサインなどの言語）
11	重度重複障害（医療的ケアの必要なこどもの生活と支援、病弱児の支援、重度重複障害の家族とその支援）
12	障害のある子の一生を通じた支援体系（「個別の支援計画」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」それぞれの意義と作成の方法とその活用）
13	統合保育実践（特別な支援を必要とする子への支援と配慮、クラスや園全体への教育効果、保護者を含めた関係機関との連携）
14	児童発達支援の保育実践（親子通園・単独通園の特性と意義、個別の指導計画からつくる指導案、環境構成などの特別な配慮、他機関への支援と連携）
15	14回までの講義全体をまとめ、知識の定着、概念の理解、応用力を確認する

科目名	障害児保育Ⅱ			授業コード	YE4786A0	科目コード	YE4786
担当教員	金　允貞・下尾　直子						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

「障害児保育Ⅰ」で学んださまざまな障害の特性や対応方法に関する基礎知識をもとに、保育者に求められている具体的な指導や支援の方法を学ぶ。　以下の５点を目標とする。　①障害児もしくは障害が疑われる子どもの特性と発達を適切に評価する方法を身につける　②子どもの気持ちに寄り添う援助ができる　③教材・環境の工夫をしながら、発達の見通しをもった適切な援助ができる　④保護者や家族に対する支援の方法を知る　⑤障害児に対する社会的支援の現状を知り、地域の専門機関等の連携の意義と方法を理解する。

2．授業概要

まず支援の実際に不可欠な基礎知識として「障害児保育Ⅰ」で学んだ障害の特性に関する知識や「発達心理学」等で学んだ発達段階や発達課題に関する知識を確認する。　次に、子どもの理解と一人ひとりに合った適切な支援の見通しを持つために、記録・評価、教材、環境への配慮、集団生活への配慮について学ぶ。　さらに職員間の連携、保護者や家族への支援の意義と方法を学ぶ。また地域の関連機関について知り、適切な連携の方法を学ぶ。保育職に求められている実践力、対応力を身につけるために、事例を通して自ら考え、教材研究を行ったり、支援計画を立てたり、積極的に体得しようとする姿勢での取り組みを求める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

保育者として、子どもの発達や心理について、また教材・教具についての知識があること、1年次に学んだ障害に関する基礎知識があることを前提に授業を進める。それらについては、必ず復習をして授業に臨むこと。　また、実際に障害のある子どもに接すること、障害のある子どもに関する報道（新聞・テレビ・雑誌）に触れそれについて周囲の人と話し合うことを推奨する。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度・発言等（評価の20%）
授業内で提出するリアクションペーパーの充実度（評価の30%）
授業内の小テストや筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

*テキスト：「障害児保育Ⅰ」で使用したテキストを使用する
　『演習・保育と障害のある子ども』　野田　敦史・林　恵　監修　（株）みらい　2017年

*参考文献：授業内で、適宜紹介する

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「障害児保育Ⅰ」を履修し、その内容を十分に理解していること

授業計画	
	【前期】
1	1年時の復習（「障害」のとらえ方、障害の特性）
2	統合保育の実践（クラスのプログラムに合わせた個別の対応）
3	発達評価の実際（「気になる子」の発見と様々な検査、評価することの意味、さまざまな評価の観点）
4	統合保育①　障害のある子とともに過ごす生活と遊び
5	統合保育②　統合保育の魅力：共に育つ子どもたち
6	統合保育③　統合保育の現場からみた困難
7	個別の支援計画の実際①　こどもの現状把握
8	個別の支援計画②　個別の目標の立て方、成長を促すプログラム　個別の対応
9	児童発達支援センターの実際①（統合保育との差異、他専門職との連携、クラスのプログラム作成など）
10	児童発達支援センターの実際②（感覚統合法、子どもの発達に合わせた遊びなど）
11	児童発達支援センターの実際③（問題行動」への対応と指導）
12	障害のある子の保護者や家族への支援
13	様々な連携の重要性（地域とのつながり、他専門職とのつながり、就学へ向けての連携）
14	障害のある子の育ち　先の人生を見通す支援
15	14回までの講義全体をまとめ、障害のある子の保育についての理解を確認する

科目名	保育内容・健康			授業コード	YE4214A0	科目コード	YE4214
担当教員	神蔵　幸子・長島　万里子・岡本　かおり						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

子どもの「健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培うようにする」ことについて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「健康」の視点より理解を深める。また、子どもの健やかな成長は遊びを通し総合的に指導されるものであることを、演習授業等を通し、学生自身が考え、子ども主体の保育を実践する力をつけることを目指す。

2．授業概要

１．「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園」に示された領域「健康」の解説を中心にしながら、運動遊び、基本的生活習慣、食育、安全等について、具体的指導法を考える視点を養う。
２．子ども健康を取り巻く現状を理解し、子どもの健康な育ちを支える保育者の役割について考える。
３．領域「健康」と他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。
４．保育における他領域との総合的指導の理解を目的として、他科目と連携を図った課題への取り組みを予定している。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

幼児期の遊び体験等について思い出すなど、自分自身の体験と重ねて授業内容を理解すること。
保育者は子どもに基本的生活習慣の範を示す存在である。保育者を志す学生として自覚をもち生活すること。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『子どもの元気を育む保育内容研究』池田裕恵・高野陽編著（不昧堂出版）
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞　文部科学省（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞　厚生労働省（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的な姿勢で取り組むこと。
配資料等の整理をすること。
他科目との関連を捉えながら授業に参加すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス：授業内容の説明 ・保育内容「健康」の概要について理解する。
2	領域「健康」の理解 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」を理解する。 ・他領域との関連について理解する。
3	領域「健康」のねらい・内容 ・復習：領域「健康」のねらい・内容について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をよく読み整理する。
4	子どもの遊びと健康（1）　園内外での遊びと計画 ・子どもにとっての遊びの意義を理解する。
5	子どもの遊びと健康（2）　園外保育の実際 ・予習：園外保育についての資料を読み理解する。 ・復習：園外保育における保育者の留意事項を整理する。
6	子どもの遊びと健康（3）　園外保育のまとめ ・園外保育の意義を理解する。 ・園外保育の特性を生かした保育を計画する。
7	安全指導と安全管理の実際 ・復習：安全管理と安全教育について整理する。
8	健康な生活のリズム ・予習：自分自身の幼年期の生活リズムを振り返る。
9	基本的生活習慣の形成と保育者の役割 ・予習：基本的生活習慣とは何か調べておく。 ・復習：基本的生活習慣の形成を支える保育者の役割について整理する。
10	教材研究（1）伝承遊びについて ・予習：伝承遊びについての体験を振り返る。 ・復習：様々な伝承遊びを体験する。
11	教材研究（2）手づくり教材（お手玉）の作成 ・予習：お手玉の材料を検討し準備する。 ・復習：様々なお手玉遊びについて調べる。
12	子どもの「健康」を育む保育計画と指導案（１） 伝承遊び（お手玉）の実践研究
13	子どもの「健康」を育む保育計画と指導案（２） ・予習：「幼児期運動指針」についての資料を読む。 ・子どもの多様な動きを引き出す運動遊びについて理解する。
14	子どもの健康管理と健康教育 ・領域「健康」が目指す子どもの健康について理解する。 ・子どもの健康を支え育む保育者の役割について自身の考えを整理する。
15	授業のまとめ・解説

科目名	保育内容・人間関係			授業コード	YE4224A0	科目コード	YE4224
担当教員	神蔵　幸子・鈴木　律子・高橋　優子						
授業形態	演 習	配当学年	1			期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

今日、人との関わりは、核家族化、都市化、情報化等の進展によって、より一層希薄化され、直接的で豊かな人間関係を提供する幼児・保育現場での役割が益々高まっている。「保育内容・人間関係」では、子ども達が「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て人と関わる力を養う」ことについて、様々な視点から総合的に理解し、子どもの「生きる力」を育む保育を実践する力をつけることを目指す。

2．授業概要

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」の理解と指導方法について学ぶ。
・領域「人間関係」と他領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。
・各年齢における子どもの「人間関係」の育ち、および保育者の役割について、保育に関する映像や資料を通し理解する。
・今日における人間関係の課題について学び、これからの子ども達に求められる「生きる力」について考える。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「人間関係」の視点を持ち日頃より生活すること。また、実習における体験と授業での学びを結び付けて考えられるとよい。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度　（評価の50%）
平常点＜課題等の提出、授業態度等＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

＜テキスト＞
『保育内容　人間関係』　神蔵幸子・桃枝智子 編著　（大学図書出版）
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞　文部科学省　（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』　＜最新版＞　厚生労働省　（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

＜参考文献＞
『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』　文部科学省　（ひかりのくに）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題には積極的な姿勢で取り組むこと。
授業内で配布される資料等はきちんと整理しておくこと。
他教科との関連を捉えながら授業に参加すること。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の説明 保育内容「人間関係」とは何か
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」
3	領域「人間関係」のねらいと内容 復習：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらい・内容を整理する。
4	幼児期における「人間関係」（１）：３歳児の人間関係 ・予習：テキストに示された3歳児の各事例を読む ・復習：3歳児の人間関係について整理する
5	幼児期における「人間関係」（２）：４歳児の人間関係 ・予習：テキストに示された4歳児の各事例を読む ・復習：4歳児の人間関係について整理する
6	幼児期における「人間関係」（３）：５歳児の人間関係 ・予習：テキストに示された5歳児の各事例を読む ・復習：5歳児の人間関係について整理する
7	「人間関係」の視点より実習を振り返る 予習：実習先で印象に残った出来事を整理する。
8	乳児期における「人間関係」（１）：０歳児の人間関係 ・予習：テキストを事前に読んでおくこと ・復習：0歳児の人間関係について整理する
9	乳児期における「人間関係」（２）：１歳児の人間関係 ・予習：テキストを読んでおくこと ・復習：1歳児の人間関係について整理する
10	乳児期における「人間関係」（３）：２歳児の人間関係 ・予習：テキストを読んでおくこと ・復習：2歳児の人間関係について整理する
11	乳幼児期における人間関係のまとめ 出生から就学前までの子どもの「人間関係」の育ちとプロセス
12	「人間関係」における保育者の役割 子ども理解と援助 子どもの「人間関係」を育むための指導計画の作成
13	「人間関係」における今日的課題（１）：子ども達の現状と背景 ・予習：子どもに関する新聞記事等に目を通しておくこと
14	「人間関係」における今日的課題（２）：子どもの「生きる力」を育む大人の役割
15	授業のまとめ・解説

科目名	保育内容・環境			授業コード	YE4234A0	科目コード	YE4234
担当教員	曽野　麻紀・並木　真理子・鈴木　律子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

子どもを取り巻くさまざまな環境（自然、動植物、物、道具、社会環境など）についての理解を深める。また、子どもがどのように環境と関わり、生活や遊びに取り入れていくのかを事例を通して学ぶとともに、学生自身が体験することを通して遊びや環境を考え出す力をつけることを目指す。

2．授業概要

1．乳幼児期における環境の役割について学ぶ。
2．領域「環境」のねらい・内容と指導方法を学ぶ。
3．領域「環境」と他の領域の関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」、「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。
4．保育における他領域との総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から自分の周囲の自然をよく観察し、自然の変化や季節に対して敏感に感じ取れるように意識すること。また、身の回りにある物や道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味、関心がどのような点にあるのかを考えること。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢・課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『保育実践に生かす保育内容「環境」』　高内正子監修　上中修 編　（保育出版社）
『保育を支える生活の基礎　～豊かな環境のつくり手として～』神蔵幸子・中川秋美 編著（萌文書林）
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞　文部科学省　（フレーベル館）2018年
『保育所保育指針解説書』　＜最新版＞　厚生労働省　（フレーベル館）2018年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2016年

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。
課題は必ず期日を守って提出すること。
他科目との関連を常に意識して授業に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	保育における「環境」とは何か
2	領域「環境」とは
3	子どもの育ちと環境に関わる力
4	自然との関わり① ー身の回りの自然に気付くー
5	自然との関わり② ー四季と園生活ー
6	環境構成と援助① ー身近な自然の遊びや動植物を取り入れた保育計画ー
7	人的環境との関わり
8	物や道具との関わり① ー物や道具の意味と使い方ー
9	物や道具との関わり② ー物や道具を利用した園生活ー
10	文字や標識との関わり
11	数量・図形との関わり
12	社会や文化との関わり
13	環境構成と援助② ー環境構成の意図と様々な環境設定ー
14	環境構成と援助③ ー環境の再構成ー
15	まとめ　ー全授業内容の総復習ー

科目名	保育内容・言葉			授業コード	YE4271A0	科目コード	YE4271
担当教員	並木　真理子・曽野　麻紀・鈴木　律子						
授業形態	演 習	配当学年	1			期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

乳幼児期の言葉の発達過程および領域「言葉」のねらい・内容を理解し、乳幼児の発達に即した指導計画の立案、保育教材の選択、環境設定及び援助について考え実践する力の獲得を目指す。

2．授業概要

1．乳幼児の言葉の発達過程や言葉の果たす役割を学ぶ。
2．「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」を理解し、豊かな言葉を育むための保育の方法を学ぶ。
3．絵本などの児童文化財の意義と概要を理解し、児童文化財を活用した指導計画の立案や実践を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

1．児童文化財（絵本・紙芝居など）に日常的に慣れ親しむこと。
2．実習時など子どもと関わる機会において、子どもの言葉に耳を傾け、言葉の特徴や子どもの気持ちについて授業内容と結びつけながら理解を図ること。
3．授業ごとの課題ついての勉強を自主的に行うこと。
　　必修課題：幼稚園実習・保育所実習のための部分実習指導案作成、 児童文化教材の作成

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢、課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『実践保育内容シリーズ「言葉」』　谷田貝公昭・廣澤満之 編著　（一藝社）2014年
『幼稚園教育要領＜H29年告示＞』　文部科学省　（フレーベル館）
『保育所保育指針＜H29年告示＞』　厚生労働省　（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜H29年告示＞』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。
課題は必ず期日を守って提出すること。
他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。

授業計画	
	【後期】
1	乳児期の言葉の機能
2	乳児期の言葉の発達 ー前言語期のコミュニケーションー
3	幼児期の言葉の発達 ー話し言葉と書き言葉の発達ー
4	領域「言葉」の理解 ーねらい・内容・内容の取扱いー
5	言葉を育む保育環境
6	子どもの育ちに合わせた保育計画① ー部分指導案の作成（幼稚園）ー
7	言葉を育てる援助と環境① -遊びの中の言葉-
8	言葉を育てる援助と環境② -子どもの言葉に対応した声掛け-
9	保育における児童文化財と言葉遊び
10	保育教材の作成 ー作成の意義と留意点ー
11	子どもの育ちに合わせた指導計画② ー作成する保育教材の部分指導案（保育所）ー
12	保育教材の発表①
13	保育教材の発表②
14	言葉の諸問題と小学校「国語」との関連
15	まとめー全授業内容の総復習ー

科目名	保育内容・総論			授業コード	YE4272A0	科目コード	YE4272
担当教員	神蔵　幸子・曽野　麻紀・高橋　優子						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

保育内容5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）やその他の保育専門科目等で学んできたものを総合的に結びつけ、保育の現場で実践していく力の獲得を目指す。

2．授業概要

1．各領域の関連性について学び、具体的な保育内容に結びつけながら、子どもの理解や保育内容について総合的に捉える視点を養う。
2．保育内容の変遷を見ることにより、その変化の意味や底流にある一貫性について考え、自らの保育観を作り上げる一助とする。
3．「日々の保育は子どもの興味と経験の積み重ねである」ことに着目し、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」について、乳幼児の遊び（活動）を発達的側面から理解し、指導のポイントをどこにおくかについて実践例から具体的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

1．保育内容5領域について『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』を熟読し、理解しておくこと。
2．幼稚園、保育所、認定こども園の違いについて知識を整理しておくこと。
3．子どもの発達について理解しておくこと。
4．実習等で体験した具体的保育内容を、授業で学んだ視点で捉えなおし、保育が「総合的な指導」として展開していることへの理解を深めること。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢・課題、レポート提出状況＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『生活事例からはじめる　保育内容総論』神蔵幸子・宮川萬寿美　編著（青鞜社）
『保育を支える生活の基礎　～豊かな環境のつくり手として～』神蔵幸子・中川秋美 編著（萌文書林）
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 （フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 （フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

そのほか、参考資料、文献は随時授業内で配布、紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

配布資料や授業内容を記録したものをノートやファイルにきちんとまとめること。
課題の提出期日を厳守すること。

授業計画	
	【後期】
1	保育の基本と保育内容
2	環境を通して行う保育
3	子どもの生活と保育① ー幼稚園・保育所の一日ー
4	子どもの生活と保育② ー保育形態と指導方法ー
5	乳児・低年齢児の発達
6	乳児・低年齢児の保育と指導方法
7	３・４・５歳児の発達
8	３・４・５歳児の保育と指導方法
9	保育内容の歴史的変遷①幼稚園 ー戦前～戦後の保育内容及び領域ー
10	保育内容の歴史的変遷②保育所 ー保育制度及び保育所保育指針ー
11	保育における計画の重要性
12	保育の多様な展開① ー特別に支援を要する子どもと多文化共生ー
13	保育の多様な展開② ー家庭や地域との連携ー
14	保育における記録
15	まとめ　ー全授業内容の総復習ー

科目名	教育課程論			授業コード	YK4186A0	科目コード	YK4186
担当教員	並木　真理子・鈴木　律子・高橋　優子						
授業形態	講　義		配当学年	2		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	必　修

1．主題・到達目標

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」における教育課程、全体的な計画（保育課程）の意義や役割、編成の方法を理解し、子どもの育ちを見通して指導計画を立案する力および幼児理解によって適切に自己評価し保育を再構成する力を身につけることを目指す。

2．授業概要

①「教育課程」、「全体的な計画（保育課程）」、「指導計画」、「カリキュラムマネジメント」という用語を理解し、　「教育課程・全体的な計画（保育課程）」、「指導計画」の意義および具体的な内容を学ぶ。
②「カリキュラムマネジメント」の意義を学び、指導計画→保育実践→省察・評価→改善する方法を実習指導と関連付けながら学ぶ。
③　指導計画については、実際に立案・作成・実践（模擬保育）・評価ができるように演習を行う。6月に教育実習、9月に保育所実習があることを考慮し、授業の前半では幼稚園教育を、後半では保育所保育を中心に授業を進める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

1．保育で使われる用語（教育課程・全体的な計画・ねらい・内容・養護など）とその意味を理解し覚えること。
2．子どもの発達、保育内容や教材について常に復習し、自発的に調べる・理解を深めるなどして、指導計画立案に活かせるよう努めること。
3．授業の課題について自主的に勉強すること。また、作成する指導案は、模擬保育及び実習で実践できるように準備し、省察・評価及び改善を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢・課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
『教育・保育課程論 - 書いて学べる指導計画 - 』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正　著（萌文書林）2016年

参考文献
『幼稚園教育要領解説』　文部科学省（フレーベル館）2008年
『保育所保育指針解説書』　厚生労働省（フレーベル館）2008年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2016年

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。
課題は必ず期日を守って提出すること。
他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	教育課程・全体的な計画（保育課程）の意義
2	幼稚園教育の基本と教育課程の歴史的変遷
3	教育課程の編成と指導計画とのつながり
4	短期指導計画の作成①【幼稚園】 －幼児の発達の特徴とねらい・内容の考え方－
5	短期指導計画の作成②【幼稚園】 － 環境構成、予測される子どもの姿、援助・配慮点の考え方－
6	模擬保育と評価①【幼稚園】
7	保育所保育の基本と保育課程・全体的な計画の歴史的変遷
8	全体的な計画（保育課程）と指導計画とのつながり
9	乳児の特徴と指導計画
10	多様な保育計画（小学校との接続、異年齢保育）
11	短期指導計画の作成③【保育所】 －養護を意識した生活場面の指導－
12	短期指導計画の作成④【保育所】 －子どもの発達に即した指導案の立案－
13	模擬保育と評価②【保育所】
14	保育の評価 －カリキュラムマネジメントと幼児指導要録・保育児童要録－
15	まとめ　－全授業内容の総復習－

科目名	カウンセリング論			授業コード	YK4156A0	科目コード	YK4156
担当教員	坪井　葉子・山本　有紀・宮川　千春						
授業形態	講　義		配当学年	2		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	選　択

1．主題・到達目標

幼児理解の意義を踏まえ、幼児理解のための知識と具体的な方法を身につける。保育者として子どもの心のに寄り添い、必要な援助を行うために「カウンセリングの基礎知識」「カウンセリングマインド」を理解し、子どもの発達や個々の状況を踏まえた適切な援助力、障害や不適応等への対応力を身につける。

2．授業概要

(1)幼児理解の意義について学ぶ
(2)幼児理解の原理・方法としての「カウンセリングマインド」「カウンセリング技法の基礎」を学ぶ
(3)事例に基づき、問題の捉え方と対応について具体的に学ぶ

3．授業時間外の学習（予習復習について）

学んだ用語や考え方をよく復習し、身につけること。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による授業内容の理解度、　課題レポートの内容充実度（評価の50%）
授業内の提出物の充実度と授業参加姿勢（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『保育現場で使えるカウンセリング・テクニック　子どもの保育・発達支援編』　諸富祥彦・冨田久枝　編 著　（ぎょうせい）　2015

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年次に履修した心理学関連科目を復習しておくこと。

授業計画	
	【前期】
1	保育現場から見える“いまどき”の子どもたちの姿
2	子どもと関わるカウンセリングテクニック① （ペーシング、ミラーリング、うなづき、あいづち、伝え返し）
3	子どもと関わるカウンセリングテクニック② （わたしメッセージ、リフレーミング、勇気づけ）
4	子どもと関わるカウンセリングテクニック③ （がんばり見つけ、ありがとう回し、モデリング）
5	子どもと関わるカウンセリングテクニック④ （ピアサポート・ピースフルスクールプログラム）
6	発達のアセスメント、愛着と発達
7	事例の検討①　0-1歳の発達の問題
8	事例の検討②　集団に馴染みにくい（非社会性）
9	事例の検討③　けんかが絶えない（反社会性）
10	事例の検討④　保育者になじめない（分離不安）
11	事例の検討⑤　朝、起きられない（養育の問題）
12	事例の検討⑥　着替えができない、偏食（生活習慣）
13	事例の検討⑦　指しゃぶり、爪かみ　（神経性習癖）
14	事例の検討⑧　自分の実習経験から
15	保育者の役割、まとめ

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)			授業コード	YE4350A0	科目コード	YE4350
担当教員	坪井　葉子・並木　真理子・岡本　かおり・長島　万里子						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

保育者に求められる①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③子ども理解やクラス運営、④指導力 に関する知識や技能の修得状況を確かめ保育実践力を高めることを目指す。

2．授業概要

(1)「履修カルテ」を記入し、実習や専門科目の内容を振り返りながら学習の不十分な点を自覚し、知識・技能の定着を図る。
(2)保育職に就くことを前提に、役割演技（ロールプレイング）や事例研究、グループ討論を用いて自己課題を自覚し、
①使命感・責任感　②社会性や対人関係能力　③子ども理解やクラス運営　④指導力に関する知識や技能の向上を図る

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演習課題の準備は手順と期限を守ってきちんと行うこと。
欠席回の授業（演習）内容について、把握しておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

各演習課題への準備・取り組み姿勢、最終回の「まとめ」における学習の振り返りを総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み　幼稚園保育所　編』　小櫃智子・矢藤誠慈郎　編著　2014　（株）わかば社

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実際に保育職に就くことを前提に授業を進めるので、異なる進路を目指す者であっても、保育者としての免許・資格を取得する責任を自覚し、各々の保育実践力の向上を目指すこと。積極的な参加をし、「協同的に学ぶ」姿勢をもって授業に臨むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業の進め方、授業準備の方法と分担）
2	保育者実践力とは（履修カルテ記入、振り返り）
3	子ども理解の方法と実際
4	気になる子どもの理解と対応
5	保育のカリキュラムの基礎
6	保育のカリキュラムを考える
7	保育内容を考える
8	保育方法を考える
9	協同的な学びを考える
10	保育の振り返り
11	保護者および地域との関係づくり
12	幼保小の接続
13	園の安全管理
14	保育者の専門性
15	自分の「保育者像」をめざして（まとめ）

科目名	社会福祉			授業コード	YK4795A0	科目コード	YK4795
担当教員	下尾　直子・飯塚　美穂子・西岡　弥生						
授業形態	講　義		配当学年	1		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必　修

１．主題・到達目標

近年、社会福祉の制度がめまぐるしく変わり、また、社会福祉のサービスの範囲・内容・そして体制も同時に変化している。この授業では「社会福祉とは何か」について、その考え方や内容の変遷、そして現在の社会福祉の法律や制度、社会福祉の範囲および諸外国の社会福祉の動向について確認し、社会福祉の基礎知識を理解できるようになることを目標とする。

２．授業概要

基礎的な知識についての講義を行うとともに、具体的事例をイメージし、自分で考える力を向上できるように、学習を進める。新聞記事などの報道資料、映像や写真を使った具体的事例の紹介、またそれらを材料としたディスカッションなどを行い、基礎的な知識を習得できるようにする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は、テキストを事前に読むだけではなく、日頃から社会で起きていることに関心をよせ考察を深めておくこと。具体的には、新聞記事などの資料を読み、また、報道等から自分の意見をまとめ、周囲の人と話し合うことを心がける。復習は、毎回の授業後に、テキストの該当箇所、配布資料を読み直し、授業で扱った専門用語等について繰り返し復習し、正確に記憶することが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の35%）
授業内の課題等の提出（評価の20%）
筆記試験による内容の理解度（評価の45%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『保育と社会福祉（第２版）』橋本好市・宮田徹編　（みらい）
参考文献については、授業内に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

講義内容筆記用のノート・プリント類保存用のファイルを用意し、前回までの授業の資料を整理して、教科書とともに毎回持参すること。授業内容の筆記を必ず行うこと。積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション　　社会福祉とは何か（保育との関連　理念）
2	現代社会の特徴と生活課題
3	社会福祉の歴史的変遷（欧米と日本の福祉）
4	社会保障制度の概要
5	社会保険制度の概要
6	社会福祉の制度・法体系
7	現代社会の貧困と公的扶助
8	現代家族と児童家庭福祉
9	障害者の自立を支える福祉
10	高齢社会を支える福祉
11	地域福祉の推進と住民参加
12	利用者保護にかかわる仕組み
13	他分野との連携とネットワーク
14	社会福祉の専門職とその倫理
15	まとめ　社会福祉と保育士のこれからを考える

科目名	児童家庭福祉			授業コード	YK4766A0	科目コード	YK4766
担当教員	板倉　香子・西岡　弥生・宮地　さつき						
授業形態	講 義		配当学年	1		期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

今日では子どもを取り巻く社会的状況が変化し、様々な「児童問題」が生じている。保育者は、子どもと関わる上でこれらの児童問題に直面する場面も多く、その際には児童の最善の利益や児童福祉の知識が必要となる。本講義を通して、1.現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、2.児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権、3.児童家庭福祉の制度や実施体系等、4.児童家庭福祉の現状と課題、5.児童家庭福祉の動向と展望について理解できることを目標とする。

2．授業概要

社会福祉で学んだことを基礎として、テキスト及び具体的な事例を通して児童家庭福祉分野の今日的課題について考察していく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

児童家庭福祉は幅広い分野と繋がりがあり、子どもの権利については法学、健全育成やひとり親家庭、家族については社会学、子どもの発達については心理学・医学等との関連が考えられる。予習はテキストを読むだけではなく、関連領域についても興味を持ち調べること。社会福祉の動向についても新聞等で理解しておくこと。復習では、毎回の授業後に、テキストの該当箇所や配布資料を読み直しておくこと。また専門用語、制度・法律などは正確に覚えるよう復習することが求められる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の35%）
平常点〈授業内の小テスト・課題提出〉（評価の20%）
筆記試験による内容の理解度（評価の45%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『改訂　子ども家庭福祉』
佐々木政人・澁谷昌史・加藤洋子　編著（光生館）

参考文献は、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

社会福祉の単位を修得していることが望ましい。ノートを用意し、必ず講義内容を筆記すること。
履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション　　児童家庭福祉の理念と概念
2	現代社会の児童及び家族が抱える問題
3	児童家庭福祉の歴史的変遷
4	児童家庭福祉の一分野としての保育
5	児童の人権擁護と児童家庭福祉
6	児童家庭福祉の制度と法体系
7	児童家庭福祉の実施機関（児童相談所）
8	児童福祉施設等
9	児童福祉に関わる専門職・実施者
10	少子化と子育て支援・保育サービス
11	母子保健と児童の健全育成
12	児童虐待防止とドメスティックバイオレンス
13	社会的養護（施設養護・家庭養護）
14	障がいのある児童、少年非行等への対応
15	まとめ　　次世代育成支援、関連機関との連携

科目名	家庭支援論			授業コード	YK5057A0	科目コード	YK5057
担当教員	飯塚　美穂子・板倉　香子・柴崎　祐美						
授業形態	講　義	配当学年	2			期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必　修

1．主題・到達目標

現代の家庭を取り巻く社会的状況や、家庭の意義とその機能について理解し、その上で、それぞれの家庭に応じた支援とはどのようなものであるのか、地域においてどのような子育て支援があるのか、家族支援のあり方について様々な角度から学び、それを実践につなげることができるようになることを目標とする。

2．授業概要

今日の社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について理解するとともに、子どもが健やかに成長するために必要な子どもや子育て家庭への支援について学ぶ。特に、保育者に期待される、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について考える。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

テキストは指定された箇所を事前に読んで授業に出席すること。毎回の授業後には、テキストの該当箇所や配布資料を見直しておくこと。また、日常的に、新聞やテレビのニュース等から、子どもや家庭、それらを取り囲む環境に関する報道に関心を持つこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
課題提出、授業内の小テスト及びレポート（評価の30%）
筆記試験による内容の理解度（評価の40%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『家庭支援論　第2版』　新保幸男・小林理編著　（中央法規出版）

参考文献：授業内に適宜紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分の意見の発表、質問を積極的に行うことなど、履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション　家庭の意義と機能
2	子育て環境の変化と家庭支援の必要性
3	保育士等が行う家庭支援の原理
4	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化
5	地域社会の変容と家庭支援
6	現代の家庭における人間関係
7	男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス
8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
9	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
10	多様な子育て支援サービスの概要
11	保育所入所児童の家庭への支援
12	地域の子育て家庭への支援
13	要保護児童およびその家庭に対する支援
14	子育て支援における関係機関との連携
15	まとめ　　子育て支援サービスの課題

科目名	相談援助			授業コード	YE4797A0	科目コード	YE4797
担当教員	飯塚　美穂子・板倉　香子・浦野　耕司						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

現代社会では、子どもや親、さらには子どもとかかわりをもつ地域住民にも、生活上のさまざまな不安や課題が生じている。保育士が社会福祉の専門職として、こうした不安や課題に適切に応えるためには、保育の知識や技術だけではなく、相談援助者としての技量が必要である。（1）社会福祉の専門職としての倫理を身につけること（2）ソーシャルワークの基礎的な技法を身につけること（3）相談援助のための資源について知り、それらを活かす力を身につけることを目標とする。

2．授業概要

ソーシャルワークの原則や基本的な技法を講義と演習を通して学ぶ。特に、ディスカッションやロールプレイなどにより、保育の現場に起きる多様な事例を疑似体験し、社会福祉の倫理に従って考えることの積み重ねに重点をおいて進めていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

テキストは毎回の授業の該当箇所を事前に読んで受講すること。授業後は、配付されたプリントやテキストの該当箇所を読み、復習すること。また、日頃から社会で起きていることに関心をよせ、保育に関する社会問題等については資料の収集や周囲の人と話し合うことを習慣にしてほしい。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の40%）
授業内の課題等の提出（評価の20%）
筆記試験による内容の理解度（評価の40%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『演習・保育と相談援助』　前田敏雄監修／佐藤伸隆・中西遍彦編　（みらい）

参考文献は、授業内で随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

講義内容筆記用のノート・プリント類保存用のファイルを用意し、前回までの授業の資料を整理して、テキストとともに毎回持参すること。積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーションと導入 保育と相談援助
2	相談援助とは（１）相談援助の技術、視点
3	相談援助とは（２）相談援助の原則と倫理
4	相談援助の知識・技術（１）自己覚知と他者理解
5	相談援助の知識・技術（２）コミュニケーションスキル
6	相談援助の知識・技術（３）相談援助における記録
7	相談援助の知識・技術（４）生活課題と社会資源の把握
8	相談援助の過程（１）インテークとアセスメント
9	相談援助の過程（２）援助計画の作成
10	相談援助の過程（３）相談援助の実施と評価
11	事例検討（１）児童虐待の事例分析
12	事例検討（２）障害児とその保護者への支援事例の分析
13	事例検討（３）社会福祉施設の事例分析
14	事例検討（４）ロールプレイによる相談援助
15	まとめと確認テストおよび解説

科目名	保育相談支援			授業コード	YE5082A0	科目コード	YE5082
担当教員	飯塚　美穂子・坪井　葉子・浦野　耕司						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

保護者に対する支援は、保育士の重要な業務のひとつであることを理解し、保育士の保護者支援について学ぶ。
保育相談支援の意義、原則、内容を理解し、方法を身につけることを目標とする。

2．授業概要

授業では、まず保育相談支援の意義と原則について学ぶ。事例や演習を行う中で、子どもの送迎時の対応、連絡や行事など、保育の中での様々な機会を活用して、保護者を支援するための基本姿勢、技術、展開過程について理解する。また、保育所入所児童の保護者に限らず、地域子育て支援や、保育所以外の児童福祉施設における相談業務について理解を深める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各課題の準備や提出をきちんと行うこと。　授業前後には、テキストの指示された箇所を読んだり、課題に取り組むなどして予習・復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度もしくはレポート内容の充実度（評価の50%）
平常点＜提出物、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢＞（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

基本保育シリーズ『保育相談支援』　公益財団法人児童育成協会監修　西村重稀・青井夕貴編集（中央法規）2015年
参考文献は、授業内で随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業には必ずテキストを持参すること。
積極的に授業に参加すること。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーションと導入 保育相談支援の意義（１）
2	保育相談支援の意義（２）保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
3	保育相談支援の基本（１）子どもの最善の利益と福祉の重視
4	保育相談支援の基本（２）子どもの成長の喜びの共有と保護者の養育力の向上
5	保育相談支援の基本（３）保護者との信頼関係の構築
6	保育相談支援の基本（４）社会資源の活用と連携・協力
7	保育相談支援の実際（１）保育に関する保護者に対する指導
8	保育相談支援の実際（２）保護者支援の内容
9	保育相談支援の実際（３）保護者支援の方法と技術
10	保育相談支援の実際（４）保護者支援の計画・記録・評価・カンファレンス
11	児童福祉施設における保育相談支援（１）保育所における保育相談支援の実際
12	児童福祉施設における保育相談支援（２）保育所における特別な対応を要する家庭への支援
13	児童福祉施設における保育相談支援（３）児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
14	児童福祉施設における保育相談支援（４）障害児施設・母子生活支援施設における支援
15	まとめと確認テストおよび解説

科目名	社会的養護			授業コード	YK5025A0	科目コード	YK5025
担当教員	板倉　香子・泉　さわこ・内川　麻実子						
授業形態	講　義		配当学年	2		期間	半　期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必　修

1．主題・到達目標

多様化する社会状況の中で、子どもが健全に育つための安全・安心な家庭環境が保障されなくなってきているのが現状である。それに対応する策として整備されている社会的養護について体系的に学び、1.社会的養護の意義と歴史的変遷、2.社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護、3.社会的養護の制度や実施体系、4.社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援、5.社会的養護の現状と課題を理解することを目標とする。

2．授業概要

新聞記事や映像資料等を参照しながら、具体的事例を通して社会的養護の現状を解説する。さらに、その中での保育士の役割について深く考察する機会をもつことで、社会的養護の実際を示していく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は、テキストの指定された箇所を読むだけではなく、日頃から関連領域の新聞記事などに関心をもち、考察を深めること。また、毎回の授業後は、テキストの該当箇所や配布資料を読み直しておくこと。授業で扱った専門用語等については繰り返し復習し、正確に記憶することが求められる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
課題提出、授業内の小テスト及びレポート（評価の20%）
筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『改訂　社会的養護』　春見静子・谷口純世・加藤洋子　編著　（光生館）

参考文献：授業内に適宜紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

社会福祉･児童家庭福祉の単位を修得していることが望ましい。ノートを用意し、必ず講義内容を筆記すること。
履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション　　社会的養護の理念と概念
2	社会的養護の歴史的変遷
3	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
4	児童の権利擁護と社会的養護
5	社会的養護の制度と法体系
6	社会的養護の仕組みと実施体系
7	家庭的養護と施設養護
8	社会的養護の専門職・実施者
9	社会的養護の実際①　日常生活支援
10	社会的養護の実際②　治療的支援
11	社会的養護の実際③　自立支援、障がい児対応
12	施設養護とソーシャルワーク
13	倫理の確立
14	被措置児童等の虐待防止
15	まとめ　　社会的養護と地域福祉

科目名	社会的養護内容			授業コード	YE5081A0	科目コード	YE5081
担当教員	下尾　直子・宮川　千春・泉　さわこ						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

社会福祉の専門職には、専門的知識のみではなく、社会的養護の現場における、人権擁護・自立支援の適切な実践力が求められる。「社会的養護」で学んだ基礎的知識と理解をふまえ、問題がおきる背景や原因について慎重に考え、実践に結びつける力を養うことを目標とする。

2．授業概要

児童福祉施設実習における経験をクラス内で共有することにより、個々の知識の幅を広げ、事例についてさまざまな角度から考察・ディスカッションすることを通じて、専門職としての具体的な支援について学ぶ。また、報道資料などから、現代の社会的養護の背景や課題を探り、それぞれの施設実習の経験と重ねて考察を深める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日頃から社会的養護に関連する報道等（新聞・テレビ・雑誌等）に関心を向け、資料の収集を行い、周囲の人の意見を聴く習慣を身につけること。児童福祉施設実習で経験したことは、自身の知的財産として整理・記録し、授業内で発表できるように準備すること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
授業内提出物の内容充実度（評価の20%）
授業内発表の内容充実度（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業では、毎回、下記のテキストを使用する。必ず持参すること。
『実習生の日誌事例から考察する社会的養護内容』　雨宮由紀枝・下尾直子編著（大学図書出版）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「社会的養護」を履修し、その内容を十分に理解していること。

授業計画	
	【後期】
1	社会的養護の実施体系
2	事例研究の意義と実際
3	日常生活支援に関する事例分析
4	治療的支援に関する事例分析
5	自立支援に関する事例分析
6	家族関係支援に関する事例分析
7	事例研究①　児童養護施設
8	事例研究②　乳児院
9	事例研究③　母子生活支援施設
10	事例研究④　児童発達支援センター
11	事例研究⑤　障害児入所施設
12	事例研究⑥　障害福祉サービス事業所
13	事例研究⑦　障害者支援施設（入所）
14	事例研究⑧　重度心身障害児者施設
15	社会的養護の課題と展望

科目名	造形表現Ⅰ			授業コード	YE4521A0	科目コード	YE4521
担当教員	黒須　和清						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

１．主題・到達目標

手を使って物を作る「造形活動」は人間が生きていくための大切な力である。特に幼児期はその楽しさにはじめてふれる時期であり保育に携わる者はたくさんの楽しい造形体験のよりよい伝え手でなくてはならない。
伝承おもちゃを中心にその技法や動く仕組み、年齢に応じた形での提供の仕方を製作実技で体験することにより、自分の造形のレパートリーを広げ、必要に応じていつでも実践できる応用展開力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

おもちゃについて学ぶ。
「動き」「材料」「伝承玩具」など各回のテーマに対応した手作りおもちゃの見本を毎回複数紹介し、乳幼児向けのわかりやすい作り方で実製作をする。作品として完成させることが目的ではなく、将来の実践のサンプル作りとしてなるべくたくさんの製作体験をすることが望ましい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で作った作品が完成に至らなければ、家で必ず完成させておく。何度も作って手に覚えさせる事が身に付くコツである。
いろいろな折に作り、レシピを見ずに作れるようになる事が望ましい。製作の手順とともに子どもたちへの教え方、材料の準備の仕方なども大事な復習ポイントである。

４．成績評価の方法及び基準

授業中の製作物や、提出課題の製作物の造形能力の評価をするとともに、授業中の製作に取り組む態度（意欲的に参加しているか、作ったり遊んだりの様子が子どもたちと共に造形をするときの創作意欲をかきたてるようないいパフォーマンスになっているか、など）による工作の演じ手、指導者としての資質や努力も評価のひとつとする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『たのしいおもちゃ屋さん』 黒須和清著 （鈴木出版）
『イラストハンドブック 「せんせい、ぞうさんかいて！」』黒須和清著 （ブイツーソリューション）

参考文献：
『ひとあじちがうおもちゃのレシピ』
『壁面テーマパーク１２ヶ月』
『かんたん人形劇』
『お菓子なカードのつくりかた』 （いずれも黒須和清著・鈴木出版）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初日に指定された工作道具は次回までに必ず各自でそろえること。
道具の貸し借りや共同使用は認めない。
造形の授業は本だけで学べるものではなく、その習得は先人に直に教えを受け、その手で実体験する事が何より大事である。30講義全てが大事な習得体験なので１００％の出席が原則。出席しても意欲的に授業にのぞめない場合は退室を命じたり、欠席にすることもある。欠席が前後期合わせて8回を越えたら再履修とする。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション（工作道具について）
2	伝承文化（おりがみ）
3	伝承おもちゃ1（風車）
4	季節の工作（花）
5	演じ物1（七夕の人形劇他）
6	身近な材料１（紙コップ）
7	たのしい動き１（ぽんぽこ）
8	発表会に向けて１（かぶりもの）
9	たのしい動き２（バランス）
10	遊具の製作（コリントゲーム）
11	遊具の製作（コリントゲーム）
12	伝承おもちゃ２（わりばし鉄砲とこま）
13	カード作り１（とびだすカード）
14	たのしい動き３（くるくる）
15	たのしい動き４（のぼりくだり）

授業計画	
	【後期】
1	カード作り2（おもしろカード）
2	身近な材料２（牛乳パック）
3	伝承おもちゃ３（けん玉）
4	身近な材料3（スポンジ）
5	たのしい動き５（くねくね）
6	たのしい動き6（とぶ）
7	実習に向けて（かんたん紙工作）
8	クリスマス工作（リース・ブーツ）
9	クリスマス工作（ツリー他）
10	クリスマス・お誕生会工作（ケーキ）
11	発表会に向けて２（音のおもちゃ・楽器）
12	たのしい動き7（ころころ）
13	身近な材料4（ビニール）
14	発表会に向けて3（ステンドグラス・背景装置他）
15	イラストの描きかた

科目名	保育内容・造形的表現			授業コード	YE4269A0	科目コード	YE4269
担当教員	大貫　真寿美・小野　さおり						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	通 年
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

造形表現を通じて、こどもたちの感性を培うことが出来る保育者を目指す。保育者として必要な造形に関する技術を身に付け、感性を養う。幅広い年齢の子ども達が作って遊べるバリエーション豊かな造形遊びや制作を経験し、保育者としての技術の習得を目指す。また、なぜ造形表現がこどもたちにとって必要か？ということを意識的に考察し、より深い思考力をつける。

2．授業概要

シンプルな造形制作や遊びを通して造形素材の性質をよく知り、素材の特徴を生かした制作物で個人やグループの遊びに展開していく。造形素材のかかわりを意識することで、造形遊びに広がりと奥行きを持たせていく。小野は壁面飾りを中心として制作をする。学びの記録として、制作したものや学び気づきを写真等でまとめる。大貫は教科書による学びと制作を並行し、最終的に受講生オリジナルの絵本制作へと導く。
※通年授業を、前期・後期で大貫と小野で入れ替えで構成する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

指示された用具・材料は必ず用意すること。
普段からさまざまなものの変化（天気や風景の変化や季節の移り変わり）に目をやり感性を磨くことが必要である。
学習の後は学んだ技術に自分のオリジナルの部分を加える工夫をする。

4．成績評価の方法及び基準

提出課題と授業内での実技への意欲、関心、態度、提出された課題を総合的に判断する。
学期末どちらかの課題が未提出の場合には通年としての単位を取得できない。
前期5回、後期5回以上欠席の場合は単位取得を認めない。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

大貫真寿美の授業においてのテキスト
『ワークシートで学ぶ　子どもの造形表現』北沢昌代・中村光絵・畠山智宏著（開成出版社）
※毎回使用するので必ず購入の事。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期と後期と内容がクラスによって入れ替わる。通年を通して全内容を学ぶ。
前期・後期ともに課題を提出する。前期欠席を5回以上後期欠席を5回以上した場合は通年の単位を取得できない。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス 保育者として必要な技術とは？（世界を自分の目で観てみよう）
2	制作するときの環境設定（クレヨン・クレパスの特徴）
3	作品に結びつける題材（なぐり描きを作品に）
4	季節の制作（こいのぼり制作三種）
5	適切な材料の用意の仕方（マーブリング）
6	コピー紙を染め、ちぎり絵花（紫陽花）
7	身近なものを使って（スタンピング）
8	モノタイプ版画（自由に版遊び）
9	はさみの扱い（窓をあけて）
10	絵具を楽しむ（デカルコマニーとシャボン玉絵）
11	オープンエンドの学び（木の端材や粘土を使って）
12	絵具の適切な濃さを学ぶ（はじき絵）
13	折り紙と透明シートを使って
14	絵本作り
15	まとめ、絵本発表

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス
2	4月壁飾り／入園飾式に向けて
3	５月壁飾り／こいのぼり
4	６月壁飾り／梅雨
5	７月飾り／七夕
6	８月飾り／アクアリウム
7	９月壁飾り／運動会飾り
8	１０月飾り／ハロウィン
9	１２月飾り／クリスマス
10	1月壁飾り／熊手
11	2月壁飾り／節分
12	2月壁飾り／節分
13	宇宙の壁飾り
14	恐竜飾り
15	羽飾り

科目名	幼児音楽Ⅰ			授業コード	YE4453A1	科目コード	YE4453
担当教員	秋山　徹　・　麻野　恵子　・　飯田　千夏　・　神谷　明美　・　野坂　順子　・　諸井　サチヨ						
授業形態	演　習	配当学年	1			期間	通　年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	必　修

１．主題・到達目標

幼児教育の現場で音楽活動を展開するために必要な幼児音楽教育の内容を理解し、幼児の発達に応じた音楽指導力を身につける。
実践的な音楽技能や音楽表現力の基礎を確立する。
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」を踏まえ、知識ならびに技能を習得する。

２．授業概要

幼児教育の現場において、しっかりとした発音で話すための発音法や、美しい声や正しい音程で歌うための発声法を学び、幼児歌曲や唱歌の歌唱個人指導を含めた実践的演習を行ない、映像や音楽資料も活用して、レパートリーを広げながら歌唱力の向上を目指す。
また、学んだ発音法や発声法を基に、弾き歌い、手遊び歌、わらべうた、身体表現を組み合わせた歌唱演習などを行ない、多様な音楽活動にも対応出来る基礎的な音楽的表現力、技術力、指導力を身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

幼児音楽のレパートリーを広める意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内での演習など＞（評価の50%）
弾き歌い検定試験（評価の25%）
授業の参加姿勢（評価の25%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『幼児歌曲１００曲集』　（カワイ出版）
『みんなで手遊びOne・Two・トン 』　（ドレミ楽譜出版社）
他、適宜、資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

休まず受講することが基本である。
2年次4月の検定試験までに＜弾き歌い検定＞の＜レベル１＞に合格出来ていない場合、「教育実習Ⅲ」「保育所実習Ⅱ」に行かれない。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習（以後、継続指導）
2	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(1)
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(2)
4	幼児歌曲弾き歌い演習(1)
5	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(3)
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(4)
7	コードネーム伴奏法演習
8	歌唱個人指導(1)
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(5)
10	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(6)
11	リズム楽器演習
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(7)
13	幼児歌曲弾き歌い演習(2)
14	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ
15	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ

授業計画	
	【後期】
1	前期演習曲復習
2	幼児歌曲弾き歌い演習(3)
3	実習直前音楽指導(1)
4	実習直前音楽指導(2)
5	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(8)
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(9)
7	歌唱個人指導(2)
8	幼児器楽演習
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(10)
10	幼児歌曲弾き歌い演習(4)
11	幼児歌曲後期歌唱演習曲まとめ
12	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ
13	幼児音楽Ⅰ演習曲復習(1)
14	幼児音楽Ⅰ演習曲復習(2)
15	「幼児音楽Ⅰ」総括

科目名	幼児音楽Ⅱ			授業コード	YE4454A0	科目コード	YE4454
担当教員	秋山　徹　・　麻野　恵子　・　飯田　千夏　・　神谷　明美　・　野坂　順子						
授業形態	演　習		配当学年	2		期間	通　年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	選　択

1．主題・到達目標

幼児教育の現場で音楽活動を展開するために必要な幼児音楽教育の内容を理解し、幼児の発達に応じた音楽指導力を習得する。
「幼児音楽Ⅰ」で学んだ音楽技能や音楽表現力を基に、より実践的な音楽技能や音楽表現力を確立する。
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」を踏まえ、知識ならびに技能を確立する。

2．授業概要

幼児教育の現場において、しっかりとした発音で話すための発音法や、美しい声や正しい音程で歌うための発声法を学び、幼児歌曲や唱歌の歌唱個人指導を含めた実践的演習を行ない、映像や音楽資料も活用して、レパートリーを広げながら歌唱力の向上を目指す。
また、学んだ発音法や発声法を基に、弾き歌い、手遊び歌、わらべうた、身体表現を組み合わせた歌唱演習、幼児教育の現場における多様な音楽活動を視野に入れた演習などを行ない、幼児の感性と想像力を育む音楽的表現力、技術力、指導力を身につける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

幼児音楽のレパートリーを広める意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内での演習など＞（評価の50%）
弾き歌い検定試験（評価の25%）
授業の参加姿勢（評価の25%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『幼児歌曲100曲集』　（カワイ出版）
『みんなで手遊びOne・Two・トン』　（ドレミ楽譜出版社）
他、適宜、資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

休まず受講することが基本である。
2年次4月の検定試験までに＜弾き歌い検定＞の＜レベル１＞に合格出来ていない場合、「教育実習Ⅲ」「保育所実習Ⅱ」に行かれない。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習　（以後、継続指導）
2	幼児歌曲弾き歌い演習(1)
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(1)
4	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(2)
5	実習直前音楽指導(1)
6	実習直前音楽指導(2)
7	幼児器楽演習(1)
8	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(3)
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(4)
10	歌唱個人指導(1)
11	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(5)
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(6)
13	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ
14	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ(1)
15	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ(2)

授業計画	
	【後期】
1	幼児歌曲弾き歌い演習(2)
2	前期演習曲復習
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(7)
4	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(8)
5	歌唱個人指導(2)
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(9)
7	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(10)
8	幼児器楽演習(2)
9	幼児歌曲弾き歌い演習(3)
10	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ(1)
11	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ(2)
12	幼児音楽Ⅱ演習曲復習(1)
13	幼児音楽Ⅱ演習曲復習(2)
14	幼児音楽後期歌唱演習曲まとめ
15	「幼児音楽Ⅱ」総括

科目名	ピアノⅠ			授業コード	YE4432A1	科目コード	YE4432
担当教員	柴田　美奈・脇本 美恵子・三國 彰子 ・辻田 由利子・岡本 有子 ・押川 涼子 小林 裕子・佐藤 全子 ・三宅 麻美・林 順子 ・市川 雅己・星野 苗緒 ・大澤 美紀 池田 聡子・白澤　暁子・塩塚　美知子・大西　望						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	選 択

1．主題・到達目標

保育の現場で必要な、ピアノ演奏技術を習得する。
音楽に必要な基礎知識を身につけ、楽譜を正確に読み取り演奏する力を養う。
「グレードⅠ」の学生は、後期実技試験までに「バイエル85番」まで達する。
全ての学生は、に合格しなければならない。
10月の教育実習に向けて、実習必須曲を弾けるようにする。

2．授業概要

「グレードⅠからⅤ」の実力に適したクラスでのグループレッスン(最大５名)
グレード別に指定されたテキストより、課題の演習。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には日々の努力が必要となるため、毎日の練習を怠らない。
レッスンで受けた注意は、必ず繰り返し復習する。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・実技試験（前期、後期）・ピアノ検定
の総合評価。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「標準バイエルピアノ教則本」
「ブルグミュラー25の練習曲」
「ソナチネアルバム1」
「ソナタアルバム1」
「ソナタアルバム２」
全て、全音楽譜出版社

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1. 第1回の授業でクラス分けの実力調査（演奏）を行うため、送付された楽譜の中から、
　　実力に近いと思われる1曲を練習しておく。
2. 第2回より、決定したグレード別クラスで授業を行う。
3. 遅刻は欠席扱いとする。年間で4回欠席すると実技試験の受験資格を失い単位の修得はできない。
　　（実習、オリエンテーションは除く）
　　交通機関の遅延による遅刻は、交通機関遅延届（当日申請）を提出すること。
4. 試験の服装は、無地の白シャツ、肌色ストッキング、黒パンプス、スーツ着用とする。
5. 著しい練習不足によりピアノ演奏技術の向上が認められない場合は、単位修得不可となることがある。

授業計画	
	【前期】
1	第１回　クラス分け実力調査 第2回から第14回は、グレード別による以下の課題の演習授業　（回数に関係なく授業計画とする） ※は実技試験課題曲
2	グレードＩ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「標準バイエルピアノ教則本」 ※a 60番以上　（連弾曲は除く） ※ｂ 85番以上　（連弾曲は除く）
3	グレードＩＩ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花 （ペダル使用なし）
4	グレードＩＩＩ 「ソナチネアルバム1」 ※No.1・4・6・7　第一楽章　（ペダル使用なし）
5	グレードＩＶ 「ソナチネアルバム1」 ※No.9・10　第一楽章　（ペダル使用なし） ※No.13・14・15・16　第一楽章
6	グレードＶ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム2」 ※任意の1曲　第一楽章
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画	
	【後期】
1	第1回から第14回は、グレード別による以下の課題の演習授業　（回数に関係なく授業計画とする） ※は実技試験課題曲
2	グレードⅠ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※a 85番以上（連弾曲は除く） ※b すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花
3	グレードⅠⅠ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※アラベスク・シュタイヤー舞曲・バラード・乗馬 （ペダル使用なし）
4	グレードⅠⅠⅠ 「ソナチネアルバム1」 ※No.8・9・10・12　第一楽章（ペダル使用なし）
5	グレードⅠⅤ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム２」 ※任意の1曲　第一楽章
6	グレードⅤ 「モーツァルト・ソナタアルバム」 「ベートーヴェン・ソナタアルバム」 ※任意の1曲　第一楽章
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	ピアノⅠ（再履修）			授業コード	YE4432F7	科目コード	YE4432
担当教員	柴田　美奈・脇本 美恵子・三國 彰子 ・辻田 由利子・岡本 有子 ・押川 涼子 小林 裕子・佐藤 全子 ・三宅 麻美・林 順子 ・市川 雅己・星野 苗緒 ・大澤 美紀 池田 聡子・白澤　暁子・塩塚　美知子・大西　望						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	選 択

１．主題・到達目標

保育の現場で必要な、ピアノ演奏技術を習得する。
音楽に必要な基礎知識を身につけ、楽譜を正確に読み取り演奏する力を養う。
「グレードⅠ」の学生は、後期実技試験までに「バイエル85番」まで達する。
全ての学生は、に合格しなければならない。

２．授業概要

再履修者によるグループレッスン。（最大５名）
グレード別に指定されたテキストより、課題の演習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には日々の努力が必要となるため、毎日の練習を怠らない。
レッスンで受けた注意は、必ず繰り返し復習する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・実技試験（前期、後期）・ピアノ検定 の総合評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「標準バイエルピアノ教則本」
「ブルグミュラー25の練習曲」
「ソナチネアルバム1」
「ソナタアルバム1」
「ソナタアルバム２」
全て、全音楽譜出版社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1.4月実施の＜ピアノ特別検定＞に合格しなければ「教育実習Ⅲ」「保育所実習Ⅱ」の参加は認められない。
2.遅刻は欠席扱いとする。年間で3回欠席すると実技試験の受験資格を失い単位の修得はできない。
　（実習、オリエンテーションは除く）
　交通機関の遅延による遅刻は、交通機関遅延届（当日申請）を提出すること。
3.試験当日の服装は、無地の白ワイシャツ、肌色ストッキング、黒パンプス,スーツ着用とする。

授業計画	
	【前期】
1	第1回から第14回は、グレード別による以下の課題の演習授業。（回数に関係なく授業計画とする） ※は実技試験課題曲
2	グレードⅠ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「標準バイエルピアノ教則本」 ※a 60番以上 （連弾曲は除く） ※ｂ 85番以上 （連弾曲は除く）
3	グレードⅠⅠ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花 （ペダル使用なし）
4	グレードⅠⅠⅠ 「ソナチネアルバム1」 ※No.1・4・6・7 第一楽章 （ペダル使用なし）
5	グレードⅠⅤ 「ソナチネアルバム1」 ※No.9・10 第一楽章 （ペダル使用なし） ※No.13・14・15・16 第一楽章
6	グレードⅤ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム2」 ※任意の1曲 第一楽章
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画	
	【後期】
1	第1回から第14回は、グレード別による以下の課題の演習授業。（回数に関係なく授業計画とする） ※は実技試験課題曲
2	グレードⅠ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※a 85番以上（連弾曲は除く） ※b すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花
3	グレードⅠⅠ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※アラベスク・シュタイヤー舞曲・バラード・乗馬 （ペダル使用なし）
4	グレードⅠⅠⅠ 「ソナチネアルバム1」 ※No.8・9・10・12　第一楽章（ペダル使用なし）
5	グレードⅠⅤ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム２」 ※任意の1曲　第一楽章
6	グレードⅤ 「モーツァルト・ソナタアルバム」 「ベートーヴェン・ソナタアルバム」 ※任意の1曲　第一楽章
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	ピアノⅡ			授業コード	YL44360000	科目コード	YL4436
担当教員	柴田　美奈・内田 ゆみ子・脇本 美恵子・三國 彰子 ・辻田 由利子・岡本 有子 押川 涼子 ・小林 裕子・佐藤 全子 ・三宅 麻美・林 順子 ・市川 雅己・星野 苗緒 大澤 美紀・池田 聡子・白澤　暁子・塩塚　美知子・大西　望						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	選 択	保育士資格	選 択

1．主題・到達目標

ピアノ演奏における表現力を身につけ、保育者としてよりふさわしい演奏を目指す。
「グレードＩからＩV」の学生はに合格しなければならない。

2．授業概要

ピアノＩの担当教員による20分間の個人レッスン。
ピアノＩＩの課題の他、実習園での課題曲、就職試験の曲など、その時点で必要となる課題の演習。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には日々の努力が必要となるため、毎日の練習を怠らない。
レッスンで受けた注意は、必ず繰り返し復習する。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・実技試験（前期、後期）・ピアノ検定
の総合評価。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ、実力に合うテキストを使用する。
授業計画参照。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1.「ピアノＩ」の単位修得ができている。
2.「教育実習ＩＩＩ」、「保育所実習ＩＩ」を履修する学生は、「ピアノＩＩ」を履修しなければならない。
3.「ピアノＩＩ」履修登録後の取り消しは認められない。
4.実習のオリエンテーションや就職活動など、行事日程外での欠席は、事前に担当教員に報告する。
　またその他、やむを得ない理由により遅刻、欠席する際は必ず連絡を入れ、その旨を伝える。
5.欠席や著しい練習不足が続く場合は、単位修得不可となることがある。
6.出席状況、成績が優秀で、ピアノ検定レベル9を10月までに取得した者は、YOUKONピアノソロ出演のオーディション参加資格
　が得られる。

授業計画	
	【前期】
1	第１回から第14回は、以下の課題の演習授業。 （回数に関係なく授業計画とする） 実技試験は課題より任意の1曲。 シューマン「子供の情景」は、任意の２曲。
2	ブルグミューラー 「２５の練習曲」
3	カバレフスキー 「こどものためのピアノ小曲集」
4	ギロック 「こどものためのアルバム」
5	シューマン 「ユーゲントアルバム」
6	湯山昭 「子供の国」 （ＩＩワルツ・Ｘジャズ・ＸＩＩＩゴーカート 繰り返しあり）
7	湯山昭 「お菓子の世界」
8	シューマン 「子供の情景」 「アラベスク」
9	ショパン 「ワルツ」「ノクターン」
10	
11	
12	
13	
14	
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画	
	【後期】
1	第１回から第14回は、以下の課題の演習授業。 （回数に関係なく授業計画とする） 実技試験は任意の1曲。
2	自由曲：担当教員と相談のうえ選曲。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	合唱１			授業コード	YE4916A0	科目コード	YE4916
担当教員	藤原　規生　　＜伴奏＞柴田　美奈・佐藤　全子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	選 択

１．主題・到達目標

共に声を合わせて歌うことの魅力・充実感・達成感を自らが体験することで、将来の幼児教育の実践の場において不可欠な歌の力・音楽の力を、実践・吸収する。人が集い歌うことの本質的な意味を考え、大人数で歌うことの実体験を通して、人と人との繋がりを深め合い、大勢の中での自分の役割を模索することの大切さを感じ取ることを目標とする。

２．授業概要

音楽大学が母体である本校の特性、恵まれた環境を大切にし、年末の「第九」公演をはじめ、多くの充実した合唱体験を通して、将来の教育現場での歌唱・合唱の活かし方を探求し、理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

短時間でも良いので、発声練習、基礎練習の時間を設けること。
少しの時間を活用し、復習・予習･繰り返し練習することの大切さを実感すること。
子どもの環境に溢れる音楽のあり方についても常に思考をめぐらして探求し、実践の場に役立てられるようにすること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・演奏会への各リハーサルを含む参加状況（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ベートーヴェン 交響曲第九番 合唱終曲＜原語カナ付＞普及版・歓喜の歌』（音楽之友社）
『女声合唱とピアノのための「出発の歌」－1971年生まれのポップ・ソングー』信長貴富編曲（カワイ出版）
『JCDA合唱セレクション①「願い」』小原孝作詞 樹原涼子作曲（日本合唱指揮者協会）

幼児教育の現場で使用出来そうな実践的教材を副教材として、その都度配布または、購入を指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合唱を通して一つのものを作り上げることの楽しさ、難しさ、尊さを体感する為にも、授業中のマナー、学ぶものとしての姿勢を問い続ける。
配布プリントや学習内容を記録したものを一冊のノートもしくはファイルにまとめること。
五線譜のノートも必要に応じて活用。

授業計画	
	【前期】
1	合唱についてと通年授業の展開説明をガイダンスし、簡単な合唱曲を歌いつつパート分けを行い、呼吸・姿勢・基本的発声法を学ぶ。
2	幼児教育での現場での実践的教材、エチュード的教材を活用し、ソルフェージュ能力を高める練習を取り入れる。 自分の音域・音色・声量を意識させ、パート分けを確定させる。
3	幼児教育での現場での実践的教材、エチュード的教材を活用し、ソルフェージュ能力を高める練習を取り入れる。 自分の音域・音色・声量を意識させ、パート分けを確定させる。
4	幼児教育での現場での実践的教材、エチュード的教材を活用し、ソルフェージュ能力を高める練習を取り入れる。 自分の音域・音色・声量を意識させ、パート分けを確定させる。
5	幼児教育での現場での実践的教材、エチュード的教材を活用し、ソルフェージュ能力を高める練習を取り入れる。 自分の音域・音色・声量を意識させ、パート分けを確定させる。
6	「第九」とは「ベートーヴェン」とは 「第九」への導入
7	「第九」とは「ベートーヴェン」とは 「第九」への導入
8	「第九」とは「ベートーヴェン」とは 「第九」への導入
9	「第九」とは「ベートーヴェン」とは 「第九」への導入
10	合唱させることを通してのハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
11	合唱させることを通してのハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
12	合唱させることを通してのハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
13	合唱させることを通してのハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
14	グループアンサンブル
15	前期のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	全体演習 副教材を中心に発声法の見直し・確認 「第九」の導入
2	「第九」を中心にした総合演習
3	「第九」を中心にした総合演習
4	「第九」を中心にした総合演習
5	「第九」を中心にした総合演習
6	「第九」を中心にした総合演習
7	「第九」を中心にした総合演習
8	「第九」を中心にした総合演習
9	「第九」を中心にした総合演習
10	「第九」を中心にした総合演習
11	「第九」を中心にした総合演習
12	ソリスト・合唱オケ合わせ（電子オルガン・パーカッション・ソリスト） 「第九」暗譜演習及び本番の指揮者青島氏との顔合わせ・指揮者からのメッセージ紹介
13	ソリスト・合唱オケ合わせ（電子オルガン・パーカッション・ソリスト） 「第九」暗譜演習及び本番の指揮者青島氏との顔合わせ・指揮者からのメッセージ紹介
14	「第九」本番 12月5日（水）
15	年間のまとめ

科目名	基礎表現			授業コード	YE4772A0	科目コード	YE4772
担当教員	和気　瑞江・安田　真紀子・クリス　チャベス・大倉　マヤ・山下　順子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	選 択

1．主題・到達目標

【前期】子どもの健やかな成長に大きく寄与する児童文化財のうち、与え手にとって演劇的要素の必要な人形劇、パネルシアター、絵本・紙芝居などを体験しながら、基礎的技術の習得を目指す。
【後期】保育に携わる者自身が豊かな表現力をもって魅力ある文化の与え手となれることを目標とし、保育者にふさわしい基本的な表現技術を身に付けること、個々の表現力の可能性を探ること、さらには他者の表現に対する理解を深めていくことを目指していく。

2．授業概要

【前期】演習中心の授業。
実際に幼児の前で演じることを想定しながら、人形劇やパネルシアター、紙芝居などを演じ、体験することで、身に付けていく。
【後期】表現の基礎として、ダンスや演技を自らの身体で体験し、身に付ける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で演習したものは、何度も復習することで自分のものとして生かすことができる。教育実習など、実際に幼児と触れ合う機会に実践できるよう、ひとつひとつ、身につけること。また、日常的に、幼児のための歌・絵本・童話などをたくさん読んで、表現活動の幅を広げるよう努力すること。

4．成績評価の方法及び基準

ペーパーテストは実施しない。
平常の授業態度、熱意、発表内容等で評価する。
授業への参加姿勢（評価の70%）
発表の内容など（評価の30%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【前期】『保育者のための言語表現の技術－子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践－』（萌文書林）
必要なものは教員が作成し、配付する。
参考文献は、そのつど紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演劇的な表現の苦手な学生も、将来は幼児の表現力を高める指導の担い手となるのだから、自らがより優れた表現者であろうとする熱意を持って授業を受けること。

【前期】第1回授業は、2クラス合同のガイダンス(K200教室)に集合すること：通常授業の教室と違うので、注意すること）を実施する。
第9回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。
【後期】第１回授業は、2クラス合同のガイダンス(K200教室)に集合すること）を実施する。
第9回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。
ダンス受講時は、必ず動きやすい服装（トレーニングウェアやＴシャツ、スウェットなど）に着替えて集合すること。
ジーンズでの受講は不可。靴は室内用スニーカーやダンスシューズ着用のこと。
※半期（前期・後期いずれかでも）に4回欠席すると単位を取得できない。（実習やオリエンテーションは除く。）
※前期・後期ともに途中で担当教員の交替をする。
※詳細な日程はガイダンス（第1回授業）で説明をする。

授業計画	
	【前期】 できるかぎり多くの様々な『児童文化財』を体験する。 途中、教室の変更があるので、注意すること。
1	【和気・安田】2クラス合同で前期のガイダンス ～授業の内容について説明をする
2	【和気】ペープサート①～ペープサートの人形制作 【安田】絵本の読み聞かせと紙芝居の演じ方①
3	【和気】ペープサート②ペープサートの操作と演技 【安田】絵本の読み聞かせと紙芝居の演じ方②
4	【和気】人形劇①動物のハンドパペット制作 【安田】絵本の読み聞かせと紙芝居の演じ方③
5	【和気】人形劇②動物のハンドパペット制作 【安田】パネルシアター①～作品紹介～
6	【和気】人形劇③人形の操作と演技 【安田】パネルシアター②～発表に向けて練習～
7	【和気】人形劇④グループで脚本を創作 【安田】パネルシアター③～発表会1回目～
8	【和気】人形劇⑤グループごとの発表 【安田】パネルシアター④～発表会2回目～ ※ 次週から教室を変更する
9	※ 教室が変更になるので間違えないこと 【安田】絵本の読み聞かせと紙芝居の演じ方① 【和気】ペープサート①～ペープサートの人形制作
10	【安田】絵本の読み聞かせと紙芝居の演じ方② 【和気】ペープサート②ペープサートの操作と演技
11	【安田】絵本の読み聞かせと紙芝居の演じ方③ 【和気】人形劇①動物のハンドパペット制作
12	【安田】パネルシアター①～作品紹介～ 【和気】人形劇②動物のハンドパペット制作
13	【安田】パネルシアター②～発表に向けて練習～ 【和気】人形劇③人形の操作と演技
14	【安田】パネルシアター③～発表会1回目～ 【和気】人形劇④グループで脚本を創作
15	【安田】パネルシアター④～発表会2回目～ 【和気】人形劇⑤グループごとの発表

授業計画	
	【後期】 演技とダンス両方の基礎を身につける。演技（大倉、山下担当）とダンス（クリス担当）を初回ガイダンスを除く7回ずつで交代。
1	【クリス・大倉・山下】2クラス合同で後期のガイダンス ～授業の進め方と内容～
2	【大倉または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
3	【大倉または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
4	【大倉または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
5	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
6	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
7	【大倉または山下】グループごとの発表 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
8	【大倉または山下】演技に関するまとめと復習 【クリス】ダンスのまとめと復習 ※ 次週から教室を変更する
9	【大倉または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
10	【大倉または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
11	【大倉または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
12	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
13	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
14	【大倉または山下】グループごとの発表 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
15	【大倉または山下】演技関連および後期授業のまとめ 【クリス】ダンス関連および後期授業のまとめ

科目名	総合表現　ぐりとぐら			授業コード	YE477300	科目コード	YE4773
担当教員	山下　順子・秋山　徹・古田　賢司						
授業形態	演　習	配当学年	2			期間	通　年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	選　択

1．主題・到達目標

子どもを対象とする劇作り（総合表現）を通して、子ども理解や自己表現、豊かで魅力ある集団表現を実現させる。
五感を駆使し、協同作業によってものごとを練り上げていく劇作りと上演の体験は、自主性を磨き、表現力を高め、コミュニケーション力を養い、将来子どもや様々な他者と交流する際に必ず役立つ。

2．授業概要

日本の代表的絵本のひとつ『ぐりとぐら』を着ぐるみ人形による音楽劇として舞台化し、総合的な表現活動を体験しながら、
履修の総仕上げとして幼児の観客を対象に発表上演する。
オーディション、舞台セッティング、人形着用・操作、リハーサル、上演、と進んでいく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：台本を読みながら演技のアイディアを想像する。セリフを覚える。なぜそのセリフを発するのか、どういう状況で発するのかを考え個人練習する。きっかけを覚える。楽譜を見て個人練習。
グループごとに自主稽古。過去の上演DVDを見て研究しておく。
復習：授業で行った内容を台本・楽譜を見ながら個人練習し、思い出しておく。
授業でうまくいかなかったところは必ず克服しておく。

4．成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内発表及び上演＞（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）による台本
『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）とそのシリーズ

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

最終上演に必ず参加する。
一日集中練習（7月29日オープンキャンパス、10月24日補講日、詳細後日）あり。
授業前に全員で協力してセットを組み、身体のウォームアップをしておく。
演技者以外に、演奏者、合唱、演出助手・音響・舞台スタッフとしての履修もあり。
キャスト、オーケストラ、合唱、スタッフのグループ分けは希望調査後、オーディションにて決定。

授業計画	
	【前期】 一通り「ぐりとぐら」を最後まで作り、各人が劇の流れ全体を把握する。(基本的に本番を行う前田ホールにて授業。オーケストラはシルバーマウンテンにて別稽古あり。)※稽古の進行により授業内容が多少変更になることがある。
1	ガイダンス、台本を読む
2	オーディション／スタッフ・キャスト希望調査
3	キャスティング発表、読み合わせ、着ぐるみフィッティング、人形操作。
4	舞台セッティング①（基礎編）。着ぐるみ着用練習、セリフ練習／演奏練習開始
5	舞台セッティング ②（習熟編）。頭なし着ぐるみ着用立ち稽古①（Aグループ）。
6	舞台セッティング③（自立編）。頭なし着ぐるみ着用立ち稽古②（Bグループ）／合唱練習①（Aグループ）
7	頭なし着ぐるみ着用立ち稽古③（Aグループ）／合唱練習②（Bグループ）
8	ダンス振付①。頭なし着ぐるみ着用立ち稽古④Bグループ（合唱付き）。
9	ダンス振付②。頭付き着ぐるみ着用立ち稽古①Aグループ（合唱・マイク付き）。
10	頭付き着ぐるみ着用立ち稽古②Bグループ(合唱・マイク付き)
11	オーケストラと合わせ稽古①Aグループ（マイク、頭付き）
12	オーケストラと合わせ稽古②Bグループ(マイク、頭付き)
13	授業見学会（観客の前で稽古する）。
14	あら通し（各人が全体の流れを把握する）Aグループ。
15	あら通しBグループ（全体の流れを復習）。

授業計画	
	【後期】 発表上演に向けて、個々の表現技術を高め、かつ劇全体の芸術レベルを高める。 基本的に本番を行う前田ホールでの授業を行う。 ※稽古の進行により授業内容が多少変更になることがある。
1	思い出し稽古(合唱・オーケストラ付き)Aグループ。
2	思い出し稽古（合唱・オーケストラ付き）Bグループ。
3	シーン4（動物たち全員が集まってくるところ）からを、細かく繰り返しながら稽古する。Aグループ。
4	シーン4（動物たち全員が集まってくるところ）からを、細かく繰り返しながら稽古する。Bグループ。
5	集中練習Aグループ。最初から最後まで細かく止めながら繰り返し稽古する。歌のお姉さんのシーンを作る。
6	集中練習Bグループ。最初から最後まで細かく止めながら繰り返し稽古する。歌のお姉さんのシーンの稽古。ぐりとぐらの道具稽古。
7	通し稽古Aグループ。
8	通し稽古Bグループ。附属幼稚園生授業見学。
9	仕込み
10	通し稽古Aグループ（音響外部スタッフ付き）。
11	通し稽古Bグループ（音響外部スタッフ付き）。
12	ゲネプロ（本番と同じ状態の最終通し稽古）ABグループ。上演①（Senzoku Gakuen Festival ）。
13	上演②（Senzoku Gakuen Festival ）。
14	上演③（Senzoku Gakuen Festival ）。
15	総括（上演を終えて目標を達成できたかどうか、こうしたほうがもっとよくなるという提案も含めて全員で検証、共有する）。 人形メンテナンス、倉庫整理。

科目名	演技実習			授業コード	YE492401	科目コード	YE4924
担当教員	篠原　真・瀧本　瞳・クリス　チャベス						
授業形態	演習		配当学年	2		期間	半期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	ー	保育士資格	選択

１．主題・到達目標

8月19日（日）のミュージカル公演に向け、ダンス・歌、それぞれジャンル別の授業を行い、個人の能力向上を目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（音とり、暗譜、ダンス振り付け）を与える。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
平常点＜授業内の小テスト＞（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

木曜Ｖ限の「ミュージカル（前）」を履修すること。
要望として動きやすい服装を着用すること。
他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（ストレッチ・発声）
2	＜ダンス＞ ストレッチ Hoil Holy Queen、Ｊoyful Ｊoyful振り付け①
3	＜ダンス＞ ストレッチ Hoil Holy Queen、Ｊoyful Ｊoyful振り付け②
4	＜ダンス＞ ストレッチ Hoil Holy Queen、Ｊoyful Ｊoyful振り付け③
5	＜ダンス＞ Ball of Confusion、Ｊoyful Ｊoyful 振り付け①
6	＜ダンス＞ Ball of Confusion、Ｊoyful Ｊoyful 振り付け②
7	＜ダンス＞ The Greatest Medley Ever Told 振り付け
8	＜ダンス＞ ダンス総まとめ
9	＜歌＞ 発声、祈りの歌、 The Greatest Medley Ever Told ①
10	＜歌＞ 発声、祈りの歌、 The Greatest Medley Ever Told ②
11	＜歌＞ Hoil Holy Queen、Ball of Confusion①
12	＜歌＞ Hoil Holy Queen、Ball of Confusion②
13	＜歌＞ His Eyes on the Sparrow、 Oh Happy Day
14	＜歌＞ Joyful Joyful、Ode to Joy
15	＜歌＞ 全曲総まとめ

科目名	体育（乳幼児体育を含む）			授業コード	YE4620A0	科目コード	YE4620
担当教員	石濱　加奈子・藤元　直美						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

保育者は、子どもたちの健やかなからだ作りのために、からだを動かす楽しさを伝えなければならない。そのためには、保育者自身が運動の楽しさを経験していること、十分な体力を有していること、安全に伝えるための知識や技術を習得していることが求められる。運動を通じて、それらの知識と技術を習得し、体力を向上させることを目標とする。

2．授業概要

年齢や環境に応じた安全な幼児の運動遊びを実践し、指導法を習得する。
楽しさを体感できる運動遊びの計画・実践・振り返りをおこなう。
体力向上のための縄跳び、筋力トレーニングを実践する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活の中で、階段を用いる、長い距離を歩く、こまめに動くなど、からだに負荷をかける努力をすること。
規則正しい生活習慣を身につけ、日頃から健康管理を心がけること。
運動や子どもの遊びに興味を示し、様々な方法で情報を収集すること。

4．成績評価の方法及び基準

実技テスト（評価の40%）
提出物（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の10%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：『幼児の運動あそび』吉田伊津美編（チャイルド本社）

必要に応じて資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれかでも）に4回欠席、もしくは通年で7回欠席すると単位を取得できない。（実習やオリエンテーションは除く。）
第1回目の授業時に説明するルールを遵守して受講すること。
第1回目は、運動着・運動靴を着用の上集合すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス(受講上のルールと授業の進め方、幼児における体育とは)
2	号令・整列・移動の方法について 屋外での運動遊び(伝承遊び・鬼ごっこ)
3	体力テスト(1)
4	体力テスト(2) ラジオ体操
5	リズム体操の習得(1) 伝承遊び
6	リズム体操の習得(2) 屋内でできる鬼ごっこ
7	リズム体操の習得(3) 身の周りにある素材を使った運動遊び
8	リズム体操の習得(4) 縄遊び，縄跳びが跳べるまで
9	リズム体操の習得(5) ボール遊び，「投げる」という動作について
10	リズム体操の確認テスト 低年齢児のリズム体操
11	リズム体操ー指導者としての師範・号令 遊具遊び
12	リズム体操ー発達段階に応じた動き マット遊び
13	リズム体操ー創作(1) からだ遊び(組体操)
14	リズム体操ー創作(2) からだ遊び(組立体操)
15	創作リズム体操の発表 前期授業のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス(後期授業の目標と進め方) からだ慣らしのための運動遊び
2	リズム体操(6) 多様な動きを引き出す運動遊び一種類
3	リズム体操の習得(7) 多様な動きを引き出す運動遊び一変化
4	リズム体操の習得(8) 多様な動きを引き出す運動遊び一主に下肢を使う
5	リズム体操の確認テスト 多様な動きを引き出す運動遊び一主に上肢を使う
6	運動遊び指導実践の進め方
7	運動遊び指導実践（１）
8	運動遊び指導実践（2）
9	運動遊び指導実践（3）
10	運動遊び指導実践（4）
11	運動遊び指導実践（5）
12	運動遊び指導実践（6）
13	運動遊び指導実践のまとめ・振り返り 体力向上のための運動遊び(1)
14	実技テスト（1） 体力向上のための運動遊び(2)
15	実技テスト(2) 授業のまとめ

科目名	国語			授業コード	YK4821A0	科目コード	YK4821
担当教員	坪井　葉子・岡本　かおり・柳井　郁子・長島　万里子						
授業形態	講 義		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	選 択

1．主題・到達目標

実践的な国語能力を習得し、保育者として、また社会人として適切な言語表現・文章表現の理解ができるようにする。
また、絵本や童話にふれることにより言葉を楽しみ、子どもの言語能力の発達にそった表現を学ぶと同時に自分自身の言葉の感性を磨いて豊かな表現ができるようにする。

2．授業概要

テキストを使って、読む力、要約する力、文章を書く力を育てる。また、授業内での発表や議論を通して、周りの人と対話する機会を設ける。さらに、保育者や社会人として必要なコミュニケーション・スキルについても学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業進度に合わせてテキストの語句や漢字を確認すること。
日常生活のなかで、読書の習慣をつけること。また、わからない語句や漢字については、その都度辞書等で調べること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内の課題・レポート・態度＞（評価の50%）
筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』長島和代編（わかば社）
『これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉』長島和代編（わかば社）
『級別　字形のポイント　新常用漢字2136』　（光村教育図書）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育の実践者として、言葉を読む、書く、表現する力をつけることが大切である。そのためには、言葉に対する確かな理解と深い洞察、豊かな感性が必要である。
履修者の積極的な参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス(授業概要、授業の受け方についての説明)
2	文章作成の基本①文字
3	文章作成の基本②文章
4	レポートの書き方と原稿用紙の使い方
5	さまざまな文書の書き方①文章構成
6	さまざまな文書の書き方②小論文
7	さまざまな文書の書き方③説明的文章
8	さまざまな文書の書き方④要約
9	実践記録の検討①記録を読む
10	実践記録の検討②考察する
11	手紙の書き方の基本
12	お礼状の書き方
13	保育場面におけるマナー①表情・挨拶・お辞儀
14	保育場面におけるマナー②食事、掃除
15	まとめ(授業内容のまとめと確認テスト)

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス(授業概要、授業の受け方についての説明)
2	日誌の書き方の基本
3	事例の書き方
4	考察の書き方
5	事例と考察の書き方
6	お礼状を書く
7	話し言葉の基本
8	話し言葉のトレーニング
9	敬意表現
10	保育の場でのコミュニケーション①聞く
11	保育の場でのコミュニケーション②伝える
12	保育の場でのコミュニケーション③説明する
13	保護者に使う言葉
14	物語に親しむ
15	まとめ(授業内容のまとめと確認テスト)

科目名	教育実習指導Ⅰ			授業コード	YE4351A0	科目コード	YE4351
担当教員	井上　眞理子・長島　万里子・向笠　京子・石濱　加奈子・鈴木　律子						
授業形態	演習及び実習		配当学年	1		期間	
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	-

1．主題・到達目標

幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得を目指すために必要な基礎的事項について学ぶことを主題とする。具体的には以下を目標とする。
①実習全体の体系及び各実習の意義や目的を理解する。
②保育現場に臨む心構えや態度、マナーなど、実習生としての基礎的素養を身につける。
③幼稚園、保育所における体験を通じ、保育現場における子どもの生活や保育実践に触れ関心を高める。

2．授業概要

学内における講義・演習の授業では、幼稚園及び保育所の基礎的な理解や各実習で必要とされる観察方法や記録の仕方、子ども理解の実際をテキストや視覚教材を用いて学習する。
見学実習（附属幼稚園）では、子どもの主体性を育む保育環境の実際を見学し、環境構成の重要性を学び、環境を捉える視点を習得する。
体験実習（幼稚園及び保育所）においては、保育の実際に参加し、子どもの生活や遊びを体感するとともに、子どもの実態及び保育者の援助や配慮のあり方に触れる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①手続きの書類や課題の提出期限を守り、丁寧に取り組むこと
②挨拶・言葉遣い・服装など保育者を目指すことへの自覚をもち行動すること
③専門科目の学習内容の理解に努め、実習に関連付けて考えること
④主体的・継続的に保育技術の向上に努めること

4．成績評価の方法及び基準

授業、見学実習、体験実習への参加姿勢（評価の50%）
提出物の内容、手続きの遵守（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』　神永直美　萌文書林
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学　平成30年度実習の手引き」
参考文献
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞　文部科学省　フレーベル館
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞　厚生労働省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

◆　本学の学生であるという自覚をもち、真摯で謙虚かつ主体的な態度で実習に関わる基礎的事項の学習に励むこと
◆　見学実習及び体験実習の参加条件については、「平成30年度実習の手引き」に基づく
◆　教育実習指導Ⅰの単位認定の条件については、「平成30年度実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	教育実習Ｉの意義と目的
2	実習の流れと手続きの理解
3	幼稚園教育の基礎 幼稚園における実習の実際・幼稚園教諭の役割
4	保育所保育の基礎 保育所における実習の実際・保育士の役割
5	保育の環境を捉える：保育環境と記録
6	幼稚園教諭の役割（附属幼稚園園長の講話）
7	見学実習（附属幼稚園）の目的と方法 実習に参加するための心構えと準備
8	環境を通して行う教育：環境構成を捉える視点
9	教育実習Ｉ―①　見学実習（附属幼稚園） 保育の環境の実際を学ぶ
10	保育の観察方法と実際 保育を記録に残すとは
11	体験実習（幼稚園・保育所）の目的と方法
12	体験実習（幼稚園・保育所）の事前学習 実習の心構えと手続きの理解
13	教育実習Ｉ―②　体験実習（幼稚園）　7/2（月）～7/6（金）のうち1日
14	教育実習Ｉ―③　体験実習（保育所）　7/2（月）～7/6（金）のうち1日
15	体験実習（幼稚園・保育所）の振り返り 生活の流れ・子どもの実態・保育者の援助や配慮の理解

科目名	教育実習指導Ⅱ			授業コード	YE4352A0	科目コード	YE4352
担当教員	井上　眞理子・長島　万里子・向笠　京子・石濱　加奈子・鈴木　律子						
授業形態	演習及び実習	配当学年	1			期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	-

1．主題・到達目標

教育実習指導Ⅰでの学びに基づき、幼稚園教諭としての専門性の基礎を習得することを目標とする。具体的には以下を目標とする。
(1) 幼稚園教育の基本を理解し、園生活の流れや保育環境の実際に触れる。
(2) 幼稚園の生活に参加し、子どもの実態に触れ、発達に即した援助の実際を理解する。
(3) 子どもの主体性を育む幼稚園教諭の役割及び発達に応じた子どものへの関わり方を学ぶ。

2．授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。
教育実習Ⅱでは、幼稚園における保育に参加し、幼稚園教育の実際について理解する。また原則として部分実習を経験し保育実践の基礎的な技術を習得する。
事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①手続きの書類や課題の提出期限を守り、丁寧に取り組むこと
②挨拶・言葉遣い・服装など幼稚園教諭を目指すことへの自覚をもち行動すること
③専門科目の学習内容の理解に努め、実習に関連付けて考えること
④主体的・継続的に保育技術の向上に努めること

4．成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組む姿勢（評価の50%）
実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び部分実習指導案の作成状況（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』　神永直美　萌文書林
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学　平成30年度実習の手引き」
参考文献
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞　文部科学省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

◆　教育実習指導Ⅰの単位を取得していること
◆　教育実習Ⅱの参加条件については「平成30年度　実習の手引き」に基づく
◆　実習参加までに、＜弾き歌い検定＞の「レベル１」（２曲）の弾き歌いができるようにしておく。
◆　教育実習指導Ⅱの単位取得の条件については「平成30年度　実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	教育実習Ⅱの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習Ⅱの実習目標の設定 実習における自己課題の立て方とオリエンテーションの実際
3	実習園の理解の方法 園の教育理念と方針、沿革を理解する 実習日誌の書き方の基本（園の概要）
4	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
5	実習日誌の書き方① 実習園の概要・園環境・実習の目標
6	実習日誌の書き方② 日々の記録の取り方・事例と考察・振り返りと課題の設定
7	保育教材の研究 教材の準備の実際
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	実習直前演習 実習中の報告事項や方法の理解・健康管理について
10	＜教育実習Ⅱ　10月15日（月）～10月27日（土）＞ 事後指導①　教育実習Ⅱの振り返りと今後の課題
11	事後面談（訪問教員との振り返り）
12	評価伝達
13	事後指導②　教育実習Ⅱの記録の振り返りと学びの整理
14	子どもとの関わりについての振り返り
15	総合的な振り返り

科目名	教育実習指導Ⅲ			授業コード	YE4353A0	科目コード	YE4353
担当教員	井上　眞理子・並木　真理子・山本　有紀・柳井　郁子						
授業形態	演習及び実習		配当学年	2		期間	
単位数	3	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	-

1．主題・到達目標

1年次の講義や実習での学びに基づき、幼稚園教諭としての専門性を習得することを主題とする。具体的には以下を目標とする。
(1) 子どもの心身の発達を捉え、個々の子どもの実態に即した援助方法を深く理解する。
(2) 子どもの主体性を育む環境構成の在り方やクラス運営の実際を理解する。
(3) 実習園の教育理念や指導内容を理解し、指導計画の立案と計画に基づく実践力を養う。

2．授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅲを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。
教育実習Ⅲでは、原則として全日責任実習を経験することで、幼稚園における一日の学級運営の実際や保育記録の取り方、保育を実践するための専門的技術や知識を習得する。
事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅲの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①手続きの書類や課題の提出期限を厳守し、丁寧に取り組むこと
②専門科目の学習内容の理解に努め、実習に関連付けて考えること
③保育教材の研究に努め、主体的に実習に向けた準備を行うこと
④日頃から、子ども・子どもを取り巻く環境、社会情勢に関心を持つこと

4．成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組む姿勢（評価の50%）
実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学　平成30年度実習の手引き」
参考文献
『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

◆　教育実習指導Ⅱの単位を取得していること
◆　ピアノⅡを履修すること
◆　教育実習Ⅲの参加条件については「平成30年度　実習の手引き」に基づく
◆　弾き歌い検定（レベル１以上）に合格、ピアノ特別検定（４月末まで）に合格することが、実習参加の条件となる
◆　教育実習指導Ⅲの単位取得の条件については「平成30年度　実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	教育実習Ⅲの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習Ⅱの振り返りと教育実習Ⅲの実習目標の設定 実習園の理解とオリエンテーションの実際
3	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
4	実習日誌の書き方① 実習園の概要・保育環境・実習の目標
5	幼稚園における全日責任実習の流れと指導計画
6	実習日誌の書き方② 日々の実習目標の設定・保育観察の記録・事例と考察・日々の振り返りと課題の設定
7	実習直前演習 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法・健康管理
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	＜教育実習Ⅲ　5月21日（月）～6月2日（土）＞ 事後指導①　教育実習Ⅲの振り返りと今後の課題
10	事後指導②　教育実習Ⅲの記録の振り返りと学びの整理
11	事後面談（訪問教員との実習経験の振り返り）
12	評価伝達
13	子どもとの関わりについての振り返り
14	記録についての振り返り
15	総合的な振り返り・就職に向けての課題

科目名	保育所実習Ⅰ			授業コード	YJ5061A0	科目コード	YJ5061
担当教員	井上　眞理子・長島　万里子・向笠　京子・石濱　加奈子・鈴木　律子						
授業形態	実習		配当学年	1		期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	ー	保育士資格	必修

1．主題・到達目標

保育所実習Ⅰ（保育所）では、保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。具体的には以下の内容を実践的に学ぶ。

①実習施設について理解する。
②保育の一日の流れを理解し、参加する。
③子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。
④保育計画・指導計画を理解する。
⑤生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。
⑥職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
⑦記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭・地域社会を理解する。
⑧子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
⑨保育士としての倫理を具体的に学ぶ。

2．授業概要

保育所実習Ⅰでは、保育所において保育に参画し、乳幼児の生活や遊びの様子を観察し、生活の流れや発達の実際を理解する。実習園の保育課程や指導計画、に触れ、計画に基づく保育内容と実践の関係性を把握し、部分指導実習など一部の生活を計画し、実践する経験をする。保育の観察と記録を通して、計画と実践の理解を深め、保育過程を体験的に学ぶ。保育士の姿を通し、専門職としての保育士の業務内容及び職業倫理について学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①手続きの書類や課題の提出期限を守り、丁寧に取り組むこと
②挨拶・言葉遣い・服装など保育士を目指すことへの自覚をもち行動すること
③専門科目の学習内容の理解に努め、実習に関連付けて考えること
④主体的・継続的に保育技術の向上に努めること

4．成績評価の方法及び基準

実習園からの評価（評価の50%）
実習中の手続き等の遵守・実習日誌及び部分実習指導案の作成状況（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』　神永直美　萌文書林
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学　平成30年度実習の手引き」
参考文献
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞　厚生労働省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

◆　教育実習指導Ⅰの単位を取得していること
◆　保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修すること
◆　保育士資格取得に必要な科目を履修すること
◆　保育所実習Ⅰの参加条件は、「平成30年度実習の手引」に基づく
◆　実習参加までに、＜弾き歌い検定＞の「レベル１」（２曲）の弾き歌いができるようにしておく
◆　保育所実習Ⅰの単位取得の条件は、「平成30年度実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅰ 2月6日（水）～2月20日（水）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）			授業コード	YE5068A0	科目コード	YE5068
担当教員	井上　眞理子・長島　万里子・向笠　京子・石濱　加奈子・鈴木　律子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

保育所実習Ⅰを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化することを主題とする。
具体的には以下を目標とする。
① 保育所実習Ⅰの意義・目的・内容・方法を理解し、実習における課題を明確化する
② 実習園の保育理念や方針、環境を理解する
③ 実習の心構え、特に個人のプライバシー保護と守秘義務、子どもの人権尊重について理解する
④ 実習日誌の意義や方法を理解する
⑤ 保育実践に必要な保育技術を身につけ、教材を研究する
⑥ 実習経験を振り返り、自己評価を行い、次の実習の課題や目標を明確にする

2．授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、観察や記録の取り方を学び、保育所実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。
実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。
事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①手続きの書類や課題の提出期限を守り、丁寧に取り組むこと
②挨拶・言葉遣い・服装など保育士を目指すことへの自覚をもち行動すること
③専門科目の学習内容の理解に努め、実習に関連付けて考えること
④主体的・継続的に保育技術の向上に努めること

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
課題や実習に必要な書類の内容及び事後指導における自己評価（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』　神永直美　萌文書林
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学　平成30年度実習の手引き」
参考文献
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞　厚生労働省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

◆ 教育実習指導Ⅰの単位を取得していること
◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
◆ 保育所実習Ⅰの参加条件は、「平成30年度実習の手引き」に基づく
◆ 保育所実習指導Ⅰの単位取得の条件は、「平成30年度実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅰの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	保育所保育の基本 保育所における実習の実際・乳児保育と保育士
3	保育所実習Ⅰの実習目標の設定 実習における自己課題の立て方
4	実習日誌の書き方① 実習園の概要・園環境・実習の目標
5	教材研究の基礎 乳幼児の発達に応じた教材準備
6	オリエンテーションの実際 オリエンテーションの意義と方法の理解
7	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
8	実習日誌の書き方② 日々の記録の取り方・事例と考察・振り返りと課題の設定
9	乳幼児の健康と疾病予防 子どもの健康と細菌検査の理解
10	実習直前演習① 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法
11	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
12	実習直前演習② 保育所における部分実習
13	＜保育所実習Ⅰ　2月6日（水）～2月20日（水）＞ 事後指導　保育所実習Ⅱの振り返りと自己評価
14	事後面談（訪問教員との振り返り）
15	評価伝達

科目名	保育所実習Ⅱ			授業コード	YJ5062A0	科目コード	YJ5062
担当教員	井上　眞理子・並木　真理子・山本　有紀・柳井　郁子						
授業形態	実習		配当学年	2		期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	ー	保育士資格	必修

1．主題・到達目標

保育所実習Ⅱでは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、
(1)保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、(2)家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことを主題とする。具体的には以下の内容を実践的に学ぶ。
①保育全般に参加し、保育技術を習得する。　②子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。　③指導計画を立案し、実際に実践する。　④子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得する。　⑤地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。⑥子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。⑦保育士としての職業倫理を理解する。⑧保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

2．授業概要

保育所実習Ⅱでは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所において保育に参画し、保育の計画から実践、評価改善までを実際に取り組み、保育の過程について理解を深めることができるよう、部分指導実習、責任実習を含む総合的な実習を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①手続きの書類や課題の提出期限を厳守し、丁寧に取り組むこと
②専門科目の学習内容の理解に努め、実習に関連付けて考えること
③保育教材の研究に努め、主体的に実習に向けた準備を行うこと
④日頃から、子ども・子どもを取り巻く環境、社会情勢に関心を持つこと

4．成績評価の方法及び基準

実習園からの評価（評価の50%）
実習中の手続き等の遵守・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学　平成30年度実習の手引き」
参考文献
『保育所保育指針解説書』　厚生労働省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

◆　保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること
◆　保育実習指導Ⅱ（保育所）を履修すること
◆　保育士資格取得に必要な科目を履修すること
◆　保育所実習Ⅱの参加条件は、「平成30年度実習の手引」に基づく
◆　弾き歌い検定（レベル１以上）に合格、ピアノ特別検定（４月末まで）に合格することが、実習参加の条件となる
◆　保育所実習Ⅱの単位取得の条件は、「平成30年実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅱ 9月5日（水）～9月19日（水）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）			授業コード	YE5069A0	科目コード	YE5069
担当教員	井上　眞理子・並木　真理子・山本　有紀・柳井　郁子						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必 修

1．主題・到達目標

保育所実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化することを主題とする。
具体的には以下を目標とする。
① 保育所実習Ⅱの意義・目的・内容・方法を理解し、実習における課題を明確化する
② 実習園の保育理念や方針、環境を理解する
③ 実習の心構え、特に個人のプライバシー保護と守秘義務、子どもの人権尊重について理解する
④ 実習日誌の意義や方法を理解する
⑤ 保育所における指導計画の立案の方法を理解する
⑥ 指導計画に基づく実践に必要な保育技術を身につけ、教材を研究する
⑦ 実習経験を振り返り、自己評価を行い、保育士になるための課題や目標を明確にする

2．授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、保育所実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。
実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。
事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①手続きの書類や課題の提出期限を厳守し、丁寧に取り組むこと
②専門科目の学習内容の理解に努め、実習に関連付けて考えること
③保育教材の研究に努め、主体的に実習に向けた準備を行うこと
④日頃から、子ども・子どもを取り巻く環境、社会情勢に関心を持つこと

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
課題や実習に必要な書類の内容及び事後指導における自己評価（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学　平成30年度実習の手引き」
参考文献
『保育所保育指針解説書』　厚生労働省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

◆ 保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること
◆ ピアノⅡを履修すること
◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
◆ 保育所実習Ⅱの参加条件は、「平成30年度　実習の手引き」に基づく
◆ 保育所実習指導Ⅱの単位取得の条件は、「平成30年度　実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅱの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	保育所実習Ⅰの課題の振り返りと保育所実習Ⅱの実習目標の設定 実習園の保育理念・方針の理解
3	実習日誌の書き方① 実習園の概要・保育環境・実習の目標
4	保育所における責任実習の流れと指導計画
5	オリエンテーション 実習園において実習内容や実習までの準備について理解する
6	実習日誌の書き方② 日々の実習目標の設定・保育観察の記録・事例と考察・日々の振り返りと課題の設定
7	実習直前演習① 保育所における教材研究と計画の実際
8	実習直前演習② 保育所における健康管理と細菌検査
9	実習直前演習③ 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法
10	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
11	＜保育所実習Ⅱ　9月5日（水）～9月19日（水）＞ 事後指導①　保育所実習Ⅱの振り返りと自己評価
12	事後指導②　実習経験から学びを整理する
13	事後面談及び評価伝達（訪問教員との振り返り）
14	事後指導③　専門職に求められる課題を実習体験から振り返る
15	事後指導④　保育所実習Ⅱの記録の振り返りと学びの整理

科目名	児童福祉施設実習Ⅰ			授業コード	YJ5071A0	科目コード	YJ5071
担当教員	板倉　香子・下尾　直子・飯塚　美穂子・金　允貞・井上　眞理子						
授業形態	実習		配当学年	2		期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	ー	保育士資格	必修

1．主題・到達目標

児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障がい者施設にて実習を実施し、実習先施設の機能、施設保育士の役割について理解を深め、児童・利用者への援助について実践を通して学ぶ。
具体的な目標は、以下の５つである。
①児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
②観察や児童・利用者とのかかわりを通して、児童・利用者への理解を深める。
③既習の教科の内容を踏まえ、児童の保育及び保護者への支援について具体的に学ぶ。
④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

2．授業概要

児童福祉施設等における原則11日間以上の実習。
【主な実習先施設】 児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設・障害者支援施設・障害福祉サービス事業所（生活介護・就労継続支援・就労移行支援）・福祉型障害児入所施設・医療型障害児入所施設・福祉型児童発達支援センター・医療型児童発達支援センター・独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

3．授業時間外の学習（予習復習について）

児童福祉施設の機能・役割、施設で働く保育士の利用者への援助とは何かについて、「保育実習指導Ⅰ（施設）」、「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」、「障害児保育」の授業で学んだことと関連付けながら、実習先施設について情報を集め、事前学習を行う。
また、実習後は、「社会的養護内容」の授業で学んだ内容と関連付けながら、事例検討を行い、施設での保育士の役割・利用者への援助について振り返ること。

4．成績評価の方法及び基準

実習施設よりの評価（評価の50%）
実習日誌（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『事例を通して学びを深める　施設実習ガイド』　田中利則監修　加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子編著（ミネルヴァ書房）
授業内にプリントを配布する。
参考文献については随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜履修の条件＞
保育実習指導Ⅰ（施設）を履修していること
＜履修者への要望＞
①様々な背景を持つ児童・利用者たちの「生活の場」の実習であることをよく理解し、保育士資格取得へ向けての十分な心構えと意欲をもって取り組むこと。
②心身ともに健康で、謙虚な態度で実習に臨むこと。
③実習生としてのマナーを守れること。

授業計画	
1	2年次「児童福祉施設実習Ⅰ」を実施する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）			授業コード	YE507300	科目コード	YE5073
担当教員	板倉　香子・下尾　直子・飯塚　美穂子・金　允貞・井上　眞理子						
授業形態	演習		配当学年	2		期間	
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必修

１．主題・到達目標

児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障がい者施設にて実習を実施するために必要な知識・技術を習得をめざす。
具体的な目標は、以下に示す。
1. 児童福祉施設実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

２．授業概要

原則11日間以上の実習（施設）の実施に合わせた事前準備を行うとともに、実習課題の整理を行う。実習の事後指導を実施し、実習の総括と自己課題の確認、施設における保育士の役割・機能について事例を通して振り返る。施設長等外部講師による講演を聴講し、現場の具体的事例を知る機会を設け、施設における保育士の役割について考察を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

児童福祉施設の機能・役割、施設で働く保育士の児童・利用者への援助とは何かについて「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」、「障害児保育」の授業で学んだことと関連付けながら、実習先施設についての情報を集め、事前学習を主体的に行うこと。また、実習後は、「社会的養護内容」の授業で学んだ内容と関連付けながら、事例検討を行い、施設での保育士の役割、児童の・利用者への援助について振り返りができるようにする。

４．成績評価の方法及び基準

実習指導の授業への参加姿勢（評価の50%）
実習指導に関する提出物（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『事例を通して学びを深める　施設実習ガイド』　田中利則監修　加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子編著（ミネルヴァ書房）
授業内で実習の手引き、実習冊子、その他プリントを配布する。
参考文献については随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜履修の条件＞
保育実習指導Ⅰ（保育所）および保育所実習Ⅰの単位を取得していること。
＜クラス分けの方法＞
７回～１２回の授業は、実習先施設種別・実習時期によるクラス別に指導を行う
＜履修者への要望＞
①実習先の施設に関する情報・資料を集め、実習に行く前に事前学習を十分にすること。
②実習後も学びの振り返りを十分にすること。

授業計画	
	【通年】
1	実習の意義と目的
2	実習に関する心構えと事前準備について
3	養護系施設での援助
4	養護系施設の実際
5	障害系施設での援助
6	障害系施設の実際
7	実習における目標の設定
8	個別の実習施設についての事前学習
9	実習記録の書き方
10	生活援助の実際
11	実習に向けての準備・諸手続き（事前指導①）
12	施設別の個別課題や部分実習案などの準備（直前指導②）
13	事後指導
14	実習後の手続きと自己評価
15	実習のまとめと振り返り

科目名	情報機器の操作			授業コード	YE0386A0	科目コード	YE0386
担当教員	相馬　健太・林　洋子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	半 期
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	選択

１．主題・到達目標

在学中に利用できる学内IT環境を理解し、Windows の基本操作や代表的なアプリケーション・ソフトウェアが利用できるようにする。情報倫理・モラルの基本を理解し、Web検索とビジネスメールの基本マナーを習得して、幼稚園・保育園で必要な情報機器を利用した文書を作成できるようにする。

① Windows の基本操作を習得する
② Web検索とビジネスメール利用時の注意点を習得する
③ Microsoft Word/Excelを使用し社会人として必要な文書作成ができる
④ タッチタイピングの基本を習得する
⑤ 情報倫理・モラルの基本を理解する
⑥ Microsoft PowerPointでアニメーションを含む文書作成ができる

２．授業概要

情報機器の操作をWindows のパソコンを利用して毎回実践する。
・Windows の基本操作
・Microsoft Word、Excel、PowerPoint の文書作成・編集
・保育者に必要な情報倫理、モラルの理解
・タッチタイピングの練習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内容を復習し、授業で行った操作を自分自身で行えるようにすること。
課題については、授業時間外での対応が必要である。
TypeQuickは、１４回目までに Lesson ６ Part C　まで終了すること。（強化練習は練習不要）

４．成績評価の方法及び基準

TypeQuickの進度と正解率（評価の10%）
授業への参加姿勢　　（評価の30%）
授業で作成するファイル　　（評価の30%）
課題内容の充実度　　（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『保育者のためのパソコン講座　Windows7対応版』　阿部正平・阿部和子・二宮祐子著（萌文書林）

参考文献は授業時に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

SENZOKUポータル のパスワードを持ってくること
必ず自分で操作すること。
毎回の積重が大切なので出席すること。
欠席した授業のプリントは申し出て手に入れること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス 幼稚園・保育所でのメディア活用 SENZOKUメールについて
2	WindowsとMicrosoftOfficeについての導入 情報倫理
3	Microsoft PowerPointの導入
4	Microsoft PowerPointの基本操作① ポスターを作成
5	Microsoft PowerPointの基本操作② ポスターを作成
6	Microsoft Wordの基本操作① 保護者への文書の作成
7	Microsoft Wordの基本操作② 表や画像を組み込んだ文書の作成
8	Microsoft Wordの試験と解説
9	Microsoft Excelの基本操作① スケジュール表の作成
10	Microsoft Excelの基本操作② クラス名簿の作成／関数の利用とデータベース管理
11	Microsoft Excelの基本操作③ グラフの作成
12	Microsoft Excelの試験と解説
13	Microsoft PowerPointの基本操作③ アニメーションを使用したプレゼンテーション資料の作成
14	学期末課題実施
15	学期末課題実施／総括

科目名	英語(外国語コミュニケーション)			授業コード	YE2121A0	科目コード	YE2121
担当教員	落合　俊文・山口　律子・伊藤　満里						
授業形態	演 習	配当学年	1			期間	通 年
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	選択

1．主題・到達目標

今日、日本では幼児期からの英語教育が盛んになってきている。また幼稚園や保育園には、外国人の子どもも在園しているため、外国人の子どもやその保護者との英語のコミュニケーションが保育者にとって、大切な日常業務の一つになってきている。
本授業では、そうした保育の場で特に必要と思われる内容を中心に「使える英語」を実践的に学び、英語が使える保育者育成を目指す。

2．授業概要

保育者に必要な英語表現を身に付けるため、テキストに基づいたことばの４技能（読む、書く、聞く、話す）をトレーニングする。また保育者にふさわしい教養とスキルを身に付けるため、適宜保育に関連した課題に取り組む。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】単語、熟語は、予め辞書で意味とその具体的な用法について調べ、テキストの内容に関しても不明な点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。
【復習】適宜授業内で実施される小テスト等に備え、テキストの復習をしっかり行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験・課題等＜小テスト、確認テスト、レポート、課題発表等＞（評価の70%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『保育の英会話』　赤松直子・久富陽子著　（萌文書林）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・辞書または電子辞書を毎回必ず持参すること。
・履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	○　一年間の授業の進め方についての説明 Unit １：First step to Childcare English ① ＜保育の英会話への第一歩＞ "What's your name?"　（お名前を教えて下さい。）
2	Unit １：First step to Childcare English ② ＜保育の英会話への第一歩　＞ "Nursery School"　（保育園） ・保育園で働く人々の職業名や保育園の様々な場所を示す語句を学ぶ。
3	Unit ２：Welcome to Minato Nursery School ① ＜みなと保育園にようこそ！＞ "It's nice to meet you." （お会いできて嬉しいです。） ・初対面の人と出会ったときのあいさつを学ぶ。
4	Unit ２：Welcome to Minato Nursery School ② ＜みなと保育園にようこそ！＞ "Mari-Sensei's 5-year-olds' classroom" （真理先生の担当する5歳児の保育室） ・家庭調査票や保育室の中にある様々な物に関する語句を学ぶ。
5	Unit ３：Time and Numbers ① ＜時間と数＞ "Please come to school at 8:00." （保育園に8時に来て下さい。） ・時間や数を表す表現を学ぶ。
6	Unit ３：Time and Numbers ② ＜時間と数＞ "For tomorrow, could you bring a pair of indoor shoes?"　（明日上履きを一足持ってきて頂けますか。） ・保育園に入園するときに保護者に用意してもらう所持品に関する語句を学ぶ。
7	Unit ４：Directions ① ＜地図と道案内＞ "Places around Minato Nursery School" （みなと保育園の周辺の場所） ・様々な場所の名称や方向を示す語句を学ぶ。
8	Unit ４：Directions ② ＜地図と道案内＞ "Is there a shoe store nearby?" （近くに靴屋さんはありますか？） ・前置詞を使って場所や道順を説明する表現を学ぶ。
9	Unit ５：Davy Meets His classmate Takashi ① ＜クラスメイトとの出会い＞ "Let's play with blocks." （一緒に積み木で遊ぼう。） ・他者を紹介するときの表現を学ぶ。
10	Unit ５：Davy Meets His classmate Takashi ② ＜クラスメイトとの出会い＞ "Playground"　（園庭） ・子どもの遊びや園庭の遊具を表す語句を学ぶ。
11	Unit ６：Dropping Davy off and Picking him up ① ＜デイヴィーの登園と降園＞ "It's sunny today."　（よいお天気ですね。） ・登園時の先生と保護者の会話から天候を表す表現を学ぶ。
12	Unit ６：Dropping Davy off and Picking him up ② ＜デイヴィーの登園と降園＞ "How was Davy today?" （デイヴィーの今日の様子はどうでしたか。） ・子どもの感情や状態を表す表現を学ぶ。
13	Unit ７：Jobs at Nursery School ① ＜保育者の仕事＞ "Mari-Sensei's daily schedule" （真理先生の一日） ・真理先生の保育者としての仕事を、ある一日を例にとり学ぶ。
14	Unit ７：Jobs at Nursery School ② ＜保育者の仕事＞ "What does Yoshio-Sensei do in the toddler's class?"　（よしお先生の乳児クラスの仕事） ・１歳児担当のよしお先生の仕事を例に、年齢による保育者の仕事の違いを比べる。
15	前期のまとめ（確認テストおよび解説）

授業計画	
	【後期】
1	Unit ８：Lunchtime ① ＜昼食＞ "Wash your hands, please." （手を洗いましょう。） ・保育園での昼食風景を見る。
2	Unit ８：Lunchtime ② ＜昼食＞ "Lunch menu"　（昼食の献立） ・食品や野菜の名前、分量や好き嫌いを表す表現を学ぶ。
3	Unit ９：Toilet Dialog ① ＜排泄に関する会話 ＞ " Does anyone need to go potty?" （トイレに行きたい人はいませんか。） ・子どもが言う排泄に関する表現を学ぶ。
4	Unit ９：Toilet Dialog ② ＜排泄に関する会話＞ "The Parent-Teacher communication notebook" （連絡帳） ・連絡帳のやりとりを学ぶ。
5	Unit１０　：Fighting ① ＜けんか＞ "Takashi hit my head." （たかしがぼくの頭をたたいたよ。） ・けんかや物の取り合いをしている子どもたちへの保育者の言葉かけの表現を学ぶ。
6	Unit１０：Fighting ② ＜けんか＞ "My face and body"　（顔と身体） ・身体の部位に関する単語や文房具に関する単語を学ぶ。
7	Unit１１：Injuries and Illnesses ① ＜けがと病気＞ "What's the matter?"　（どうしたの？） ・デイヴィーが保育園でけがや病気になったことを母親に伝える場面を例に表現を学ぶ。
8	Unit１１：Injuries and Illnesses ② ＜けがと病気＞ "Common childhood injuries, illnesses and symptoms"　（一般的な子どものけがや病気） ・けがや病気に関する表現を学ぶ。
9	Unit１２：Telephone Calls ① ＜電話での対応＞ "Hello. This is Minato Nursery School." （もしもし、こちら「みなと保育園」です。） ・電話での応対の表現を学ぶ。
10	Unit１２：Telephone Calls ② ＜電話での応対＞ "Telephone messages"　（電話の伝言） ・電話で受けた連絡をメッセージに書いて伝える表現を学ぶ。
11	Unit１４：Baby Care ① ＜赤ちゃんのケア＞ "This must be Davy's baby sister." （この赤ちゃんはデイヴィーの妹ね。） ・赤ちゃんへの言葉かけや育児用品の語句を学ぶ。
12	Unit１４：Baby Care ② ＜赤ちゃんのケア＞ "What do babies do ? How do children grow?" （赤ちゃんはどのように成長するの？） ・赤ちゃんの成長・発達を表す表現を学ぶ。
13	Unit１５：Graduation Day ① ＜卒園＞ "Davy, congratulations!" （デイヴィー卒園おめでとう。） ・卒園に際しての祝福や感謝の表現を学ぶ。
14	Unit１５：Graduation Day ② ＜卒園＞ "National holidays and celebrations" （祝日や記念日） ・祝日や記念日、家族関係を表す表現を学ぶ。
15	後期のまとめ（確認テストおよび解説）

科目名	健康・スポーツ			授業コード	YJ3123H0	科目コード	YJ3123
担当教員	体育実技：吉田　千秋 バレエ　：草間華奈・小林洋壱　　ジャズダンス：林七重・田之上桃慧　　ストリートダンス：ERIKA・山口裕紀						
授業形態	実技		配当学年	2		期間	通年
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	必修

1．主題・到達目標

保育者自らが健康とスポーツに興味を持ち、知識と理解を深め、自分自身の体力向上に努める。また保育の現場において、からだを動かす楽しさをこどもたちに伝えることが出来るよう、指導法についても習得することを目標とする。ダンスにおける肉体の正しい使い方を学び、子どもの□見本として動けるようになる。バランス感覚とリズム感覚を養い、保育者としての表現力の幅を広げる。

2．授業概要

＜体育実技＞
保育者自身が自分の体力を把握するために体力測定をし、自分に何が不足しているかを理解し今後の課題を見つける。保育の現場でボールを使った運動遊びを積極的に行えるよう、様々な遊びを工夫する。また水泳・水中運動そして球技運動を基本から行うことによって、体力向上を目指す。
＜ダンス＞
身体を動かして表現することの充実感を味わい、ダンスを通じて□豊かな人間関係を構築する。リズム運動の基礎となる基本のステップ□リズムを□学び、幼児の指導に必要な身体表現方法を学ぶ。□●ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ストレッチ。ステップ、コンビネーション●身体の部位を意識したアイソレーションにてダンスの基礎となる身体の使い方●身体知覚、空間の知覚、時間の知覚●音楽に合わせて振付を表現しムーブメントを学ぶ●コミュニケーションと心の考え方。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活において、習慣的に階段を用いたり長い距離を歩く、ストレッチを行なう等、身体をこまめに動かすことが望ましい。
規則正しい生活習慣を身につけ、日頃から健康管理に留意すること。

4．成績評価の方法及び基準

＜体育実技＞授業への参加姿勢（評価の40%）、実技試験＜授業内試験＞（評価の60%）
＜ダンス＞授業への参加姿勢等の平常点（評価の100%）、基礎リズム理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する。

第1回目の授業時に説明するルールを厳守して受講すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期のいずれでも）授業時数の3分の2以上出席しなければ、単位が認定されない。
但し、半期（前期・後期のいずれでも）4回以上欠席した場合、欠席回数分の補講をうけなければならない。
＜ダンス＞動きやすい服装で、室内履きのシューズを着用すること。
(ジャズダンスシューズやバレエシューズを用意するのが望ましい。)
汗をかくのでタオル、水分補給が出来る様に飲物を持参。授業開始時刻には着替えを済ませて入室する様に。

授業計画	
	【前期】＜体育実技＞A・C・E・G組　＜ダンス＞B・D・F・H組
1	＜体育実技＞オリエンテーション：授業のねらい、進め方および授業の受け方について ＜バレエ＞ストレッチ、筋力トレーニング
2	＜体育実技＞集団行動・体力測定① ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン基礎
3	＜体育実技＞集団行動・体力測定② ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン基礎、フロアーレッスン
4	＜体育実技＞ボールを使った運動あそび① ＜バレエ＞バーレッスン基礎、センターレッスン
5	＜体育実技＞ボールを使った運動あそび② ＜バレエ＞まとめ
6	＜体育実技＞球技① ＜ジャズダンス＞骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ。
7	＜体育実技＞球技② ＜ジャズダンス＞コントラクション、リリース、スパイラルの動き。
8	＜体育実技＞球技③ ＜ジャズダンス＞身体各部位の重さ、床との接触面への意識を高める。
9	＜体育実技＞球技④ ＜ジャズダンス＞ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える。
10	＜体育実技＞球技⑤ ＜ジャズダンス＞まとめ
11	＜体育実技＞球技⑥ ＜ストリートダンス＞ワームアップ、ストレッチ、筋トレ
12	＜体育実技＞水泳・水中運動① ＜ストリートダンス＞柔軟性とアイソレーションの意識
13	＜体育実技＞水泳・水中運動② ＜ストリートダンス＞基礎ステップ（ハウス）
14	＜体育実技＞水泳・水中運動③ ＜ストリートダンス＞ステップとコンビネーション
15	＜体育実技＞総括・全授業のまとめ ＜ストリートダンス＞まとめ

授業計画	
	【後期】＜体育実技＞B・D・F・H組　＜ダンス＞A・C・E・G組
1	＜体育実技＞オリエンテーション：授業のねらい、進め方および授業の受け方について ＜バレエ＞ストレッチ、筋力トレーニング
2	＜体育実技＞基礎水泳・水中運動① ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン
3	＜体育実技＞水泳・水中運動② ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン基礎、フロアーレッスン
4	＜体育実技＞水泳・水中運動③ ＜バレエ＞バーレッスン基礎、センターレッスン
5	＜体育実技＞集団行動・体力測定① ＜バレエ＞まとめ
6	＜体育実技＞集団行動・体力測定② ＜ジャズダンス＞骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ。
7	＜体育実技＞ボールを使った運動あそび① ＜ジャズダンス＞コントラクション、リリース、スパイラルの動き。
8	＜体育実技＞ボールを使った運動あそび② ＜ジャズダンス＞身体各部位の重さ、床との接触面への意識を高める。
9	＜体育実技＞球技① ＜ジャズダンス＞ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える。
10	＜体育実技＞球技② ＜ジャズダンス＞まとめ
11	＜体育実技＞球技③ ＜ストリートダンス＞ワームアップ、ストレッチ、筋トレ
12	＜体育実技＞球技④ ＜ストリートダンス＞柔軟性とアイソレーションの意識
13	＜体育実技＞球技⑤ ＜ストリートダンス＞基礎ステップ（ハウス）
14	＜体育実技＞球技⑥ ＜ストリートダンス＞ステップとコンビネーション
15	＜体育実技＞総括・全授業のまとめ ＜ストリートダンス＞まとめ

科目名	保健体育			授業コード	YK3125A0	科目コード	YK3125
担当教員	堀　純子・福田　佳奈子						
授業形態	講　義		配当学年	2		期間	半　期
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	必　修

1．主題・到達目標

現代の豊かな日本社会において若い時には健康の重要性に気づきにくい。社会人になるにあたり、今後の人生の目的を果たす手段として健康について改めて振り返り、自らの健康を維持増進する必要性を認識する。授業で学んだ知識を生かして日常生活で実践して結果を出すことを目標とする。

2．授業概要

予防医学の観点から病気にならない生活習慣を築くために必要な知識を得る。現在の自分自身の心身の状態や生活習慣を確認するために調査や計測などを行い、その結果から問題点を見つけ改善策を考えて日常生活で実践する。また妊娠や出産に関する内容について具体的に学び、今後の自らの人生に役立てるとともに保育者として活用できるようにする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業内容についてテキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題・課題は期日までに必ず取り組む。
・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
・日常生活のなかでの調査や課題に取り組む（提出あり）。
・授業で学んだ知識を日常生活で実践して望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康を得る。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験および課題による内容の理解度（評価の50%）
平常点（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『病気にならない本－予防医学へのいざない－』江藤敏治 著（大学教育出版）
『母子手帳から始める若い女性の健康学』 井上栄 著 （大修館書店）

参考文献：
『健康寿命を延ばす運動の科学―筋肉をきたえて健やかに生きる』　宮下充正 著 （明和出版）
『健康・医療の情報を読み解く　健康情報学への招待』中山健夫 著（丸善出版）
『症状別みんなのストレッチ』宮地元彦 著（小学館）
『サルコペニア肥満解消ダイエット』久野譜也 著（朝日新聞出版）他、授業時にも紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
・配布プリントと課題は各自で管理し、期限厳守で提出する。
・調査や計測は正確に行う。（＊婦人体温計を準備）
・グループワークに積極的に参加する。
・動きやすい服装（靴）とする。
・計測時は裸足になり、電卓を持参する。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス・計測① （これまでの保健体育で学んだ内容を振り返り、現状とこれから学ぶ内容を確認する）
2	予防医学と健康　＊課題（基礎体温計測）の説明 （健康に影響を及ぼす要因を知り、自分のヘルスプロモーションを考える）
3	生活習慣病と肥満 （主な生活習慣病と肥満のリスクを知る）
4	健康と運動 （運動不足病・ロコモティブシンドロームとは何か：運動の必要性を知る）
5	運動の実践とその方法・効果 （効果的な方法や注意点を踏まえて自分の運動プログラムを考えよう）
6	栄養と休養 （食生活と睡眠の現状と課題を確認し、積極的休養について知る）
7	心の健康 （ストレスチェックの方法を知り、自分のストレスマネジメントを考える）
8	グループワーク・計測② （煙草・飲酒・薬物および環境障害からテーマを選びグループワーク後に発表、中間計測により前半を振り返り今後の対策を考える）
9	出産と男女の違い （出産の実際について知り、生物学的・社会学的な男女の違いを確認する）
10	性感染症の予防 （ＳＴＤの種類と予防法、注意点を知る）
11	避妊と人工妊娠中絶 （排卵と月経について理解し、避妊の方法と人工妊娠中絶について考える）
12	女性特有の病気・症状　＊乳癌の自己検診を実践 （若い女性にも注意が必要な子宮頸癌と乳癌について詳しく知り、予防法と検診について知る）
13	妊娠 （妊娠週数・妊娠月について知り、妊娠中の注意事項と妊婦健診について理解する）
14	少子化と不妊・計測③ （妊娠・出産の生物学的な適齢期を理解し、不妊の現状と今後について知る）
15	まとめ （今後の課題と実践について考える）

科目名	法学（日本国憲法）			授業コード	YK0216A0	科目コード	YK0216
担当教員	小堀　裕子・上岡　敦・西山　智之・外塚　果林						
授業形態	講　義		配当学年	1		期間	半　期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	必　修	保育士資格	選択

1．主題・到達目標

①将来、社会生活を送る上で知っておくべき法学および日本国憲法に関する基本的なレベルの教養を身につける。
②日本国憲法の構造を体系的に把握して、人権の意義や統治機構の役割を理解する。

2．授業概要

法は普段なかなか目に見えないが、私たちの家族や職場などの日常生活に様々なかかわりを持っている。
身近な具体例や社会問題を通して、社会における法の果たす役割を理解してほしい。
日本国憲法に関しては、国民主権の原理や統治機構、憲法9条と自衛隊、人権の意義を勉強する。
また、児童や教育をめぐる法律上・憲法上のテーマにも触れたい。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書やプリントを用いて、予習および復習、ノートの整理をすることが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の70%）
授業への参加姿勢および平常点＜小テストやレポート課題等＞（評価の30%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『憲法学事始＜第2版＞』　野畑健太郎・東裕　編　（一学舎）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

すべての講義に出席することを前提とするため、無断欠席をしない。
講義中の私語や携帯・スマートフォンの操作を禁止する。
他学生への迷惑となる行為を行った者は、教室から退出してもらう（欠席扱いとする）。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（授業の進め方、採点方法などの説明）
2	法学①　社会における法・法と道徳
3	法学②　法の種類と日本の法体系
4	法学③　法と裁判-日本の裁判制度と民事・刑事
5	国民主権・天皇制・戦争放棄
6	人権の歴史と意義-人権総論（人権の種類、主体、限界）
7	基本的人権①　幸福追求権・法の下の平等
8	基本的人権②　精神的自由
9	基本的人権③　経済的自由
10	基本的人権④　社会権・参政権・人身の自由
11	統治機構①　国会
12	統治機構②　内閣
13	統治機構③　裁判所
14	財政・地方自治・憲法改正
15	全授業内容のまとめ・解説

科目名	ビジネス講座(秘書検定対策)			授業コード	YK026701	科目コード	YK0267
担当教員	稲又　可奈						
授業形態	講　義	配当学年	2			期間	半　期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	ー	保育士資格	ー

1．主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定２級」（試験は６月・１１月・２月の３回）の受験対策も行います。
希望者は準１級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。
この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

2．授業概要

この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、職場における「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
また、“秘書を目指す”ことだけにとらわれず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
実践では出来栄えだけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。
すぐに使える内容が中心で、　コミュニケーション能力を高めるのに大変効果的なプログラムです。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。
試験問題に向き合い、取り組むことでさらに　深い学習効果を実感できます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

プリント課題を毎回配布、回収します。検定試験前にはプリントの復習や実問題を繰り返し取り組むことが必要です。
ビジネスマナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントも必要です。
学んだ内容を行動できたかどうかをチェックするプリントも使用します。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
課題提出：評価20%
学期末試験：評価30%（検定受験者はその結果も考慮する）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定集中講義２級」（早稲田教育出版）　※授業開始日には必ず持参すること。

「秘書検定２級実問題集」「秘書検定準１級実問題集」（いずれも2018年度版）※秘書検定受験希望者

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。

講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。
遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。
初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・職場におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ（必要とされる資質①） 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー～第一印象アップトレーニング～
3	必要な能力　求められる人柄と身だしなみ（必要とされる資質②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～一歩リードできる自己紹介～
4	組織における役割と仕事内容（職務知識） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対①基本～
5	社会人として身に付けたいコミュニケーション（マナー接遇①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対②応用～
6	間違いやすい敬語・接遇用語（マナー・接遇②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しいおじぎの仕方～
7	来客接遇　受付・席次・湯茶の入れ方・見送り（マナー・接遇③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しい立ち居振る舞い～
8	お祝いやお悔みのマナー（マナー・接遇④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～好印象のあいさつとは～
9	贈答のマナー（マナー・接遇⑤） 実践すぐに使えるビジネスマナー～接遇用語を使う～
10	会議の知識（技能①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～名刺交換～
11	ビジネスメールやビジネス文書の名称・形式（技能②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～報告・説明をする～
12	ビジネス文書の取り扱い（技能③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～状況に応じた来客対応～
13	情報収集・資料管理（技能④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング①～
14	日程管理・オフィス管理（技能⑤） すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング②～
15	授業のまとめ・総復習

科目名	ウィンド・バンド１			授業コード	YE041000	科目コード	YE0410
担当教員	古田　賢司・石井　喜久子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	選択

１．主題・到達目標

ウィンド・バンドとは、管楽器を主体に合奏をする吹奏楽（注）の講座（演習）である。
楽器を演奏あるいは合奏する事により音楽の楽しさに親しみ、
また演奏団体としての発表を通じて表現（パフォーム）し、楽しさを伝えられる事、また音楽する力の向上と合奏技術の学習を大きな目標とする。

（注）
具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）
金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）
打楽器によって構成される合奏形態である

２．授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
主に ①合奏の為の基本練習、②セクション練習、③曲の合奏　を組み合わせて行なう。
また授業ではあるが合奏の団体として成立する事を目的に、運営にも学生が関わり進める。

2012年度、2016年度にはベルギーの作曲家、ベルト・アッペルモント氏、2015年度、2017年度はヤン・ヴァンデルロースト氏を招いてFUYUONでの演奏会に出演した。
また2014度は8月にサントリーホールにおける学園90周年記念コンサートに出演。

本年度は8月にオープンキャンパスの体験授業、12月にFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。
年間を通して演奏だけでなく音楽の楽しさを表現し伝える事を目標にして活動する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内には個人の為の練習時間は基本的に設定していない。
各自で練習時間を作り技術向上に努め、授業での合奏に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス
2	基礎合奏①
3	基礎合奏②
4	基礎合奏③
5	オープンキャンパスの練習①
6	オープンキャンパスの練習②
7	１年生だけの合奏①
8	１年生だけの合奏②
9	１年生だけの合奏③
10	オープンキャンパスの練習③
11	オープンキャンパスの練習④
12	オープンキャンパスの練習⑤
13	ワークショップの練習①
14	ワークショップの練習②
15	ワークショップの練習③

授業計画	
	【後期】
1	FUYUON の練習①
2	FUYUON の練習②
3	FUYUON の練習③
4	FUYUON の練習④
5	FUYUON の練習⑤
6	FUYUON の練習⑥
7	FUYUON の練習⑦
8	FUYUON の練習⑧
9	YOUKON の練習①
10	YOUKON の練習②
11	YOUKON の練習③
12	YOUKON の練習④
13	YOUKON の練習⑤
14	YOUKON の練習⑥
15	YOUKON の練習⑦

科目名	ウィンド・バンド２			授業コード	YE041100	科目コード	YE0411
担当教員	古田　賢司・石井　喜久子						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	通 年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	選択

１．主題・到達目標

ウィンド・バンドとは、管楽器を主体に合奏をする吹奏楽（注）の講座（演習）である。
楽器を演奏あるいは合奏する事により音楽の楽しさに親しみ、
また演奏団体としての発表を通じて表現（パフォーム）し、楽しさを伝えられる事、また音楽する力の向上と合奏技術の学習を大きな目標とする。

（注）
具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）
金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）
打楽器によって構成される合奏形態である

２．授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
主に ①合奏の為の基本練習、②セクション練習、③曲の合奏　を組み合わせて行なう。
また授業ではあるが合奏の団体として成立する事を目的に、運営にも学生が関わり進める。

2012年度、2016年度にはベルギーの作曲家、ベルト・アッペルモント氏、2015年度、2017年度はヤン・ヴァンデルロースト氏を招いてFUYUONでの演奏会に出演した。
また2014度は8月にサントリーホールにおける学園90周年記念コンサートに出演。

本年度は8月にオープンキャンパスの体験授業、12月にFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。
年間を通して演奏だけでなく音楽の楽しさを表現し伝える事を目標にして活動する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内には個人の為の練習時間は基本的に設定していない。
各自で練習時間を作り技術向上に努め、授業での合奏に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス
2	基礎合奏①
3	基礎合奏②
4	基礎合奏③
5	オープンキャンパスの練習①
6	オープンキャンパスの練習②
7	１年生だけの合奏①
8	１年生だけの合奏②
9	１年生だけの合奏③
10	オープンキャンパスの練習③
11	オープンキャンパスの練習④
12	オープンキャンパスの練習⑤
13	ワークショップの練習①
14	ワークショップの練習②
15	ワークショップの練習③

授業計画	
	【後期】
1	FUYUON の練習①
2	FUYUON の練習②
3	FUYUON の練習③
4	FUYUON の練習④
5	FUYUON の練習⑤
6	FUYUON の練習⑥
7	FUYUON の練習⑦
8	FUYUON の練習⑧
9	YOUKON の練習①
10	YOUKON の練習②
11	YOUKON の練習③
12	YOUKON の練習④
13	YOUKON の練習⑤
14	YOUKON の練習⑥
15	YOUKON の練習⑦

科目名	ミュージカル			授業コード	YE041200	科目コード	YE0412
担当教員	篠原　真・黒須　和清・横山　仁一・大倉　マヤ・瀧本 瞳・クリス　チャベス・星野　苗緒						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	半 期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	選択

1．主題・到達目標

ミュージカルは演技・ダンス・歌を融合させた総合芸術である。
一つの作品を作りあげていくというプロセスは、キャスト、アートスタッフはじめ仲間同士の円滑なコミュニケーション能力が不可欠であり、それはまた個々のスキルアップにつながる。
ミュージカルを通じて創造性・協調性・独自性を持った人材の育成を目標とする。
なお、公演日は8月19日(日)、会場は前田ホールを予定している。

2．授業概要

授業計画に沿って、ミュージカル実習を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

キャストは、メロディや歌詞、台詞、ダンス振り付けなどを確認・練習し、次回の授業までに習得しておくこと。
アートスタッフは、大道具、小道具、衣装などのアイデアを考えておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
平常点（評価の30%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

水曜Ⅰ～Ⅳ限「演技実習（前）」の授業を履修すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス DVD 鑑賞
2	キャスト、アートスタッフ希望者確定。音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。
3	キャスト希望者/音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ希望者/アートプランについてのガイダンス。
4	キャストオーディションの実施。
5	キャスト・アートスタッフ発表。 キャスト/音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ/アートプランミーティング。
6	キャスト/第１場～３場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。＃1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。＃1
7	キャスト/第１場～３場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。＃2 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。＃2
8	キャスト/第４場～６場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。＃1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。＃3
9	キャスト/第４場～６場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。＃2 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。＃4
10	キャスト/第７場～１０場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。＃1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。＃5
11	キャスト/第７場～１０場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。＃1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。＃6
12	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。＃1 アートスタッフ/衣装完成、及び衣装合わせ。
13	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。＃2 アートスタッフ/大・小道具作成作業。衣装直し。
14	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。＃3 アートスタッフ/大・小道具完成。衣装直し。
15	キャスト、アートスタッフ全員でリハーサル、及び最終チェック。

科目名	パイプオルガン１			授業コード	YE0414M1	科目コード	YE0414
担当教員	荻野　由美子・川越　聡子						
授業形態	演 習		配当学年	1		期間	通 年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	選択

１．主題・到達目標

パイプオルガンはピアノと同じ鍵盤楽器ですが、管楽器の集合体でもあります。そしてヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器なのです。また本学校歌の歌詞「互いに足を洗う」は、キリスト教の精神に基づくものです。本講座では宗教音楽に触れながら、パイプオルガンの演奏法を経験することを目標とします。

２．授業概要

個人の希望に合わせて楽曲を選択しオルガン奏法について演習します。ピアノや電子オルガンなど、これまでに経験した鍵盤楽器とは全く異なる奏法や楽曲に触れることにより、新たな発見があるでしょう。
12月にクリスマスコンサートを開催するほか、オーディションで選抜された学生は１月のYOUKONで前田ホールのオルガンを演奏することができます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。
授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
授業時の演習姿勢と内容（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）その他、パッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲。
個人の希望とレベルに合わせて選曲する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ「グレードⅣ」以上
また、Ｊ．Ｓ．バッハ「インヴェンション」を勉強した経験があること。（１回目の授業で、「インヴェンション」より任意の１曲を演奏する。）
５人のグループレッスンの形態を取りますが、各自日々の練習を大切にしてレッスンに臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎１（タッチ）
3	奏法の基礎２（ペダル奏法）
4	奏法の基礎３（レジストレーション）
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲１
7	手鍵盤のみの楽曲２
8	手鍵盤のみの楽曲３
9	手鍵盤のみの楽曲４
10	手鍵盤のみの楽曲５
11	足鍵盤付きの楽曲１
12	足鍵盤付きの楽曲２
13	足鍵盤付きの楽曲３
14	足鍵盤付きの楽曲４
15	前期のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	ツィポリの楽曲１
2	ツィポリの楽曲２
3	スタンリーの楽曲１
4	スタンリーの楽曲２
5	フィッシャーの楽曲１
6	フィッシャーの楽曲２
7	パッヘルベルの楽曲１
8	パッヘルベルの楽曲２
9	J.S.　バッハの楽曲１
10	J.S.　バッハの楽曲２
11	クリスマスコンサートの準備１
12	クリスマスコンサートの準備２
13	フランクの楽曲１
14	フランクの楽曲２
15	後期のまとめ

科目名	パイプオルガン２			授業コード	YE0415T1	科目コード	YE0415
担当教員	荻野　由美子						
授業形態	演 習		配当学年	2		期間	通 年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	選択

１．主題・到達目標

パイプオルガンはピアノと同じ鍵盤楽器ですが、管楽器の集合体でもあります。そしてヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器なのです。また本学校歌の歌詞「互いに足を洗う」は、キリスト教の精神に基づくものです。本講座では宗教音楽に触れながら、パイプオルガンの演奏法を経験することを目標とします。

２．授業概要

さらなる技術の向上を目指し、個人の希望に合わせて楽曲を選択しオルガン奏法について演習します。ピアノや電子オルガンなど、これまでに経験した鍵盤楽器とは全く異なる奏法や楽曲に触れることにより、新たな発見があるでしょう。
オーディションで選抜された学生は１月のYOUKONで前田ホールのオルガンを演奏することができます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。
授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（練習での目標到達度合い）（評価の50%）
授業時の演習姿勢と内容（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）その他、パッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲を含む課題集を、授業内で配布する。
個人の希望とレベルに合わせて選曲する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ「グレードⅣ」以上
また、Ｊ．Ｓ．バッハ「インヴェンション」を勉強した経験があること。（１回目の授業で、バッハのクラヴィーア作品より任意の１曲を演奏する。）
５人のグループレッスンの形態を取りますが、各自日々の練習を大切にしてレッスンに臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎１（タッチ）
3	奏法の基礎２（ペダル奏法）
4	奏法の基礎３（レジストレーション）
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲(1)時代背景、形式を中心に
7	手鍵盤のみの楽曲(2)和声と奏法を中心に
8	手鍵盤のみの楽曲(3)レジストレーションと表現法を中心に
9	手鍵盤のみの楽曲(4)表現法の掘り下げ
10	手鍵盤のみの楽曲(5)仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きの楽曲(1)時代背景、形式を中心に
12	足鍵盤付きの楽曲(2)和声と奏法を中心に
13	足鍵盤付きの楽曲(3)レジストレーションと表現法を中心に
14	足鍵盤付きの楽曲(4)表現法の掘り下げ
15	足鍵盤付きの楽曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	【後期】
1	J.S.バッハの楽曲(1)時代背景、様式を中心に
2	J.S.バッハの楽曲（２） 形式、和声を中心に
3	J.S.バッハの楽曲(3)奏法を中心に
4	J.S.バッハの楽曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
5	J.S.バッハの楽曲(5)表現の掘り下げ
6	J.S.バッハの楽曲(6)仕上げとまとめ
7	課題曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に
8	課題曲を学ぶ(2) 形式、和声を中心に
9	課題曲を学ぶ(3) 奏法を中心に
10	課題曲を学ぶ(4) レジストレーション、表現法を中心に
11	課題曲を学ぶ(5)表現法の掘り下げ
12	課題曲を学ぶ(6) 仕上げとまとめ
13	演奏会の準備、プログラミング
14	演奏会の総練習
15	演奏会とまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。